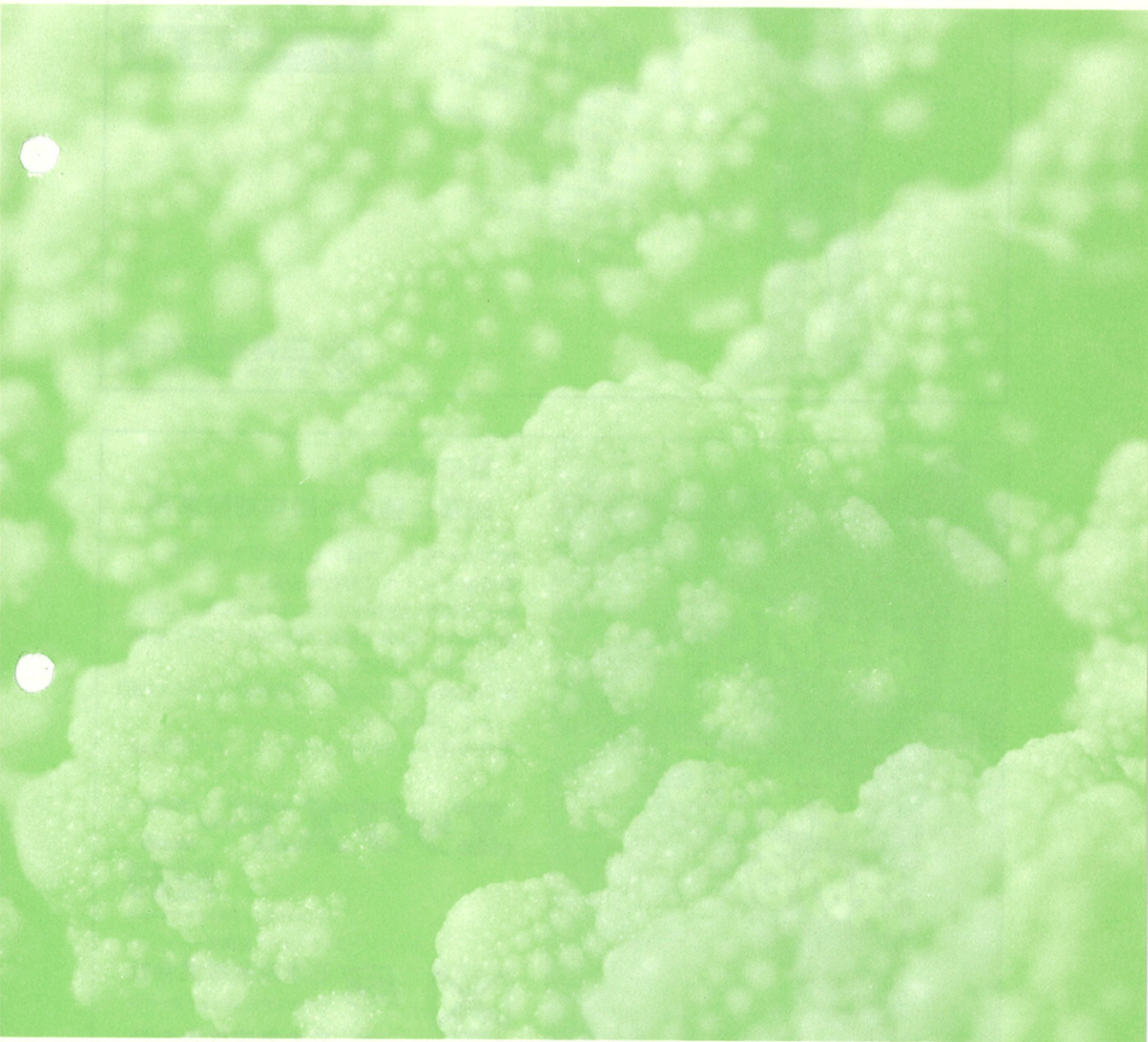


植調

第23卷第12号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編



名指揮者

数多くの音楽を演出する指揮者。
激しく、または柔らかくククトを振り、
それぞれの音楽を上手に創り上げます。
農作業場面も多種多彩。
それぞれの場面に応じられる指揮者が必要です。
三井東圧化学は、
農作業場面の指揮者として、
除草、殺虫、殺菌など、
それぞれの場面にあった農作業を
上手に演出します。

経済的な初期除草剤

MO粒剤-9

ホタルイ等に卓効を示す初期除草剤

ショウロンM粒剤

水田初・中期一発処理剤

シンザン粒剤

水田初期一発処理剤

オーザ粒剤



三井東圧化学
東京・大阪・名古屋・福岡・札幌



効きめで
選ぶ。
経済性で
決める。

苗にやさしく 雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ® 粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

———エックスゴーニ協議会———



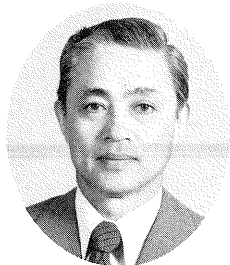
日本農薬株式会社
エックスゴーニ



石原産業株式会社
〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



巻 頭 言

「情報」とは情けに報いること

武田薬品工業株式会社 常務取締役
アグロ事業部長 森本 至郎

昨年暮れ、「植調」の巻頭言を書く様にとの御依頼があった。此の時期、最も劇的な改革が東欧で進行しつつあった。

クレムリンに発した改革の嵐は東欧を吹き荒れ、最後迄抵抗したルーマニアのチャウシェスク独裁政権をも呑み込んでしまったのである。

技術革新の波は、コンピューターの発達によりコミュニケーションにも大きな変革をもたらした。電報、電話、ラジオ、テレビ、更にはファクシミリ、パソコン通信といったニューメディアの発達による「情報化時代」のめざましい進展は、世界をますます一体化させ、政治、思想の枠組みを越えてしまった。

鉄の障壁をも打ち砕いたのである。

昨年11月9日、東ドイツ政府は国境を開放し、国民の出国を自由にした。28年間に亘って東西ドイツを分断していた「ベルリンの壁」が消え、壁が遮った長い年月を噴出するように、数多くの東ベルリン市民が西ベルリンに雪崩れ込んだ。そこで東ベルリン市民が先を競ってまず手に入れたものは、肉や果物などの食料品ではなく、西ベルリンの新聞、雑誌類であったと報じられている。

東ベルリン市民は自由な、正しい「情報」に飢えていたのである。「情報」の力は偉大である。

翻って、今や我が国は「情報」が溢れており、「情報過多」「情報洪水」などと叫ばれて久しく、氾濫している「情報」に対して「情報と如何につき合うか」「情報整理学」などの単行本まで刊行されている。

また、最近の政府の世論調査によると、国民の8割近くが「現代は情報化社会であると思う」

と答えているとの報告がある。

しかし、そもそも「情報」とは何であろうか。わが国での「情報」という言葉の使われ方は大きく二つに分けられると思う。

その一つは「人から人への知らせ」といった意味で用いられるものであり、もう一つはコンピューターなどでの「信号」を「情報」としてとらえる使われ方である。

「情報」といい「情報社会」といい、そのとらえ方で大切なことは、人が中心であって、その人にとって役に立つ「知らせ」が正確に、速く、沢山届くことが必要なのであり、それが成熟した「情報化社会」である。

「正しい情報」は大切であるが、「誤れる情報」は人を惑わし、世を欺くものである。

人にとって、生身の人間が発する雰囲気やナマの言葉、表情をダイレクトに自分で受け止め、それから得られる「情報」が「最高の情報」であることを強調したい。

現在は人の健康管理面でも情報化が進んでいる。検査、検査で自分の身体の数値が情報として算出され、それを把握することもそれなりに意味があり大切なことであろうが、それよりも医師が親切に診断し、納得ゆくまで健康状態を懇切、丁寧に説明していただく方がどれだけ有難いことか。

こうした人と人との触れ合い、交流、コミュニケーションの中核になるものが、本来の「情報」であり、「情報」とは「人と人との心のつながりの産物である」と言いたい。

「情報」とは読んで字の如く「情けに報いる」ことなのである。

(第23巻第12号)

巻頭言

「情報」とは情けに報いること…………… 1

＜武田薬品工業㈱常務取締役

アグロ事業部長 森本至郎＞

平成元年度水稻作関係除草剤試験成績概

要…………… 11

＜(財)日本植物調節剤研究協会 技術部＞

研究所・試験場めぐり…………… 57

果樹における生育調節剤利用事情(I)…………… 3

＜北陸農業試験場＞

＜農林水産省果樹試験場 鈴木邦彦＞

はじめに…………… 3

人事往来…………… 59

常緑果樹における利用…………… 3

1. カンキツ…………… 3

植調協会だより…………… 59

常緑果樹への今後の開発方向…………… 8

表紙説明：第23巻の表紙は、新しい野菜として登場した、サンゴショウハナヤサイ。

豊かな収穫が見えてくる。



使って安心・三共の農業

三共の農薬



●水田初期除草剤

サンバード® 粒剤

●水田初期一発処理剤

クサカリン® 粒剤25

●水田初期一発処理剤

クサホープ®D 粒剤

●水田用除草剤

サリオ® 粒剤

●水田初中期一発処理剤

リードゾン® 粒剤



三共株式会社 北海三共株式会社 九州三共株式会社

果樹における生育調節剤利用事情(I)

農林水産省果樹試験場 鈴木邦彦

はじめに

果樹栽培の省力化や品質向上を目的に多くの植物生育調節物質が検討され、数種の薬剤が実用に供されている。それぞれの使用目的やその方法は新たに開発され、適用拡大される場合もあるが、現時点における使用方法等について述べる。

常緑果樹における利用

1. カンキツ

カンキツ類と言っても種類が多い。栽培面積の最も多いのはウンシュウミカンであるが、次いでイヨ、ナツミカン、ハッサク、ネーブルオレンジなどが多い。しかし、最近では品質の良い、商品性の高いいくつかの品種や系統が栽培されるようになってきた。従来の品種や系統に適用されていた生育調節剤も、さらに新たな品種・系統での使用を検討し、可能なものは適用拡大されることが望まれている。

現在、生育調節剤が実用に供されている対照カンキツはウンシュウミカン、ポンカン、タンカン、イヨ、ハッサク、ネーブルオレンジ等であるが、薬剤とカンキツの種類の関係によっては、十分な効果が発揮されないこともあって、特性の異なるものには、その都度検討して適用していく必要がある。

1) ウンシュウミカン

a. 摘果

ウンシュウミカンの良品果を生産するための栽培技術の中では、摘果作業にかなり多くの時間が費やされる。特に表年の摘果作業は、摘果果実数が多いだけに、作業時間も大幅に増加し、薬剤散布等の他の管理作業の実施にも支障をきたす。

ウンシュウミカンの摘果には、かつてNAA剤が使用されたことがあるが、1975年に農薬登録がなくなり、使用できなくなった。NAA剤は効果が安定しており、使いやすかったので、生産の現場からはNAA剤の再登録を望む声も聞える。その後、代替摘果剤の研究が盛んになり、現在ではエチクロゼート(フィガロン乳剤)剤が実用化されている。

摘果の方法には全摘果と間引き摘果がある。全摘果は、字の通り全ての果実を摘除することであり、幼木や若木等で樹冠の拡大を図るため、あるいは生産調整のために行われる場合もある。しかし、一般には枝単位に果実を全部摘除し、果実を残す枝は多めに結実させて品質の向上をはかる。摘果した枝は結実を一年休ませ、その間に発生した新梢に翌年になって充実した花蕾を着生させる方法が行われる。つまり、摘果剤を散布した枝を翌年の結実のための予備枝として利用する。このような場合は、摘果したい部分にだけ摘果剤を枝別に拾い掛けすることになる。

エチクロゼート剤単用で全摘果をしようとする場合、生理落果最盛期に1,000倍(200ppm)液を散布する。しかし、エチクロゼート単用では効果が弱く、十分な全摘果効果が得られないと考えられる場合は、エチクロゼートの1,000～2,000倍(200～100ppm)にエテホン(エスレル10)を2,000～8,000倍(50～12.5ppm)加用し、生理落果最盛期に散布する。この方が強い摘果効果が得られる(表1)。

一方、摘果の極く一般的な方法として間引摘果が行われる。エチクロゼート単用で、1,000～2,000倍液を満開20～50日後の生理落果が続いているうちに全面散布する。生理落果が終ってしまったり、生理落果が起こらないような年には十分な効果が発現しないことがある。薬液量は10a当たり250～500lとし、着花や樹の生育状況によって濃度や水量を調節する必要がある。

花蕾が非常に多くて新梢が発生せず、旧葉が多いような着花状態、あるいは樹勢が非常に強いような場合は効果が不十分になることがある。間引き摘果としての散布時期には、年によって気温が低かったり、二次生理落果が起こらなかったりすることもあり、目的とする葉果比にまで果実が減少せず、十分な効果が得られない場

合がある。十分な効果が得られる状況を見極めて使用することが重要である。

b. 熟期促進・品質向上

普通の栽培条件の場合よりも早目に高品質な果実を得ることは、果樹園経営では非常に重要な問題である。これらの目的で使用される薬剤の一つに炭酸カルシウム(クレフノン)がある。後で述べる浮皮軽減と共に着色促進等の効果が認められる。その傾向は、炭酸カルシウムの微粒を果皮表面に一面に付着させることにより、果皮表面の水分が蒸散しやすくなり、果皮の水分含量も低下することによって考えられる。本剤は、これらの他にも銅水和剤による薬害軽減のためにも使用される。使用方法については浮皮軽減の項で述べる。

糖度を高め、着色促進等の品質向上のためにはエチクロゼートが用いられる。エチクロゼートを摘果剤として試験している間に、本剤を処理した枝の果実は着色が進んで果皮色が赤味の強い光沢を示し、機器での測定では明らかな差が認められないが、達観調査では明らかに差があるということになり、検討が始った。ウンシュウミカンだけでなく、ネーブルオレンジなどでの試験も行われ、摘果剤としてだけでなく、

表1. エチクロゼート及びエテホンの混用処理がウンシュウミカンの落果、葉果比、落葉及び夏芽の発生に及ぼす影響

(鈴木ら, 1987)

薬液の濃度		落果率		葉果比			落葉率			夏芽発生数(調査枝当り)
エチクロゼート	エテホン	7月1日	7月28日	処理前	処理後A	処理後B	新葉	旧葉	全体	
ppm	ppm	%	%				%	%	%	本
100	25	88.0ab	95.0b	2.8	53.8b	49.0b	0.5	21.9b	9.3a	0.0b
"	50	91.6a	94.2b	2.9	62.3b	55.6b	0.3	31.3ab	11.5a	1.7b
66	25	77.8bc	84.2c	3.6	22.3b	20.2b	0.9	28.6ab	9.7a	0.7b
"	50	90.1a	92.2b	3.4	44.0b	44.1b	0.8	33.6ab	15.0a	5.0b
100	0	68.1cd	76.3cd	3.2	13.7b	13.4b	0.7	4.7c	2.3b	1.3b
0	50	93.2a	99.4a	3.8	152.3a	125.9a	0.5	57.0a	17.0a	10.0a
0	0	56.7d	72.7d	2.6	10.8b	10.6b	0.4	3.2c	1.2b	0.0b

注: 処理後葉果比のAは散布時(6月16日)の葉数, Bは生理落果及び落葉が終了した後(7月28日)の葉数に対する葉果比を示す。同一項目の数字の末尾の同一文字はダンカンの多重検定により5%水準で有意差がないことを示す。

適用が品質向上にも広げられた。使用方法は、全樹散布とし、2,000～3,000倍液を2回散布する。1回目は満開50～60日後、2回目は満開70～80日後が適当である。エチクロゼート剤を間引摘果剤としても使用している場合は2回目のみの散布とする。

エチクロゼートは土層が浅く、樹勢が安定している樹に対して連年散布することにより、根の生育が抑えられ、樹勢低下の原因となる場合があるので、長年にわたって適度な生育が保てよう散布回数を調節する散布方法を組み立て

る必要がある。

c. 浮皮軽減

ウンシュウミカンやポンカンなどの寛皮カンキツと呼ばれるものの多くは、果実の発育が停止した後でも、果皮の発育が進み、果肉と果皮の間に空間ができやすい。これを浮皮現象というが、ぶくミカンと呼ばれる場合もある。浮皮の軽減には炭酸カルシウムやエチクロゼート剤等が使用される。炭酸カルシウムの場合は10月～11月にやや濃度の高い50倍液を立木に全面散布する。数回散布すると労力的に問題があるた

表2. 炭酸カルシウム水和剤処理が温州ミカンの浮皮発現に及ぼす影響

(河瀬, 1984)

処理薬剤と濃度	着色歩合	果実重量	果実比重	浮皮度	浮皮果発生率	薬害指数	石灰付着指数
		g			%	%	%
炭酸カルシウム水和剤1%	9.9ab	116	0.771	1.58ab	45.8ab	0	38.9bc
" 2%	9.9ab	120	0.775	1.29bc	29.2bc	0	84.7a
" 5%	9.9ab	124	0.786	0.88bc	8.3d	0	100.0a
ジベレリン 5ppm	9.2b	115	0.786	1.13bc	25.0cd	6.3	0c
無処理	10.0a	118	0.767	1.96a	62.5a	0	0c

処理期日: 1973年10月23日, 調査期日: 1974年1月14日.

ダンカン多重検定; 数値末尾アルファベットの同一文字間有意差なし(5%).

表3. ウンシュウミカンに対する着色期前後のエチクロゼート処理と浮皮防止効果

(河瀬ら, 1985)

処理区 No.	処理時間 月/日				着色 歩合	果実重 量 (g)	果実重量	浮皮度	浮皮度分布(%)				浮皮果発 生率 (%)
	10/1	10/15	11/1	11/15					無(0)	軽(1)	中(2)	甚(3)	
1	○	○	○	○	8.5	118	0.847	1.06bc	16.7	61.1	22.2	0	22.2bc
2	○	○	○	×	8.0	120	0.846	1.00bc	19.4	63.9	13.9	2.8	16.7c
3	○	○	×	×	7.7	119	0.835	1.31abc	11.1	52.8	30.6	5.6	36.2bc
4	○	×	×	×	8.5	116	0.826	1.83a	2.8	33.3	41.7	22.2	63.9a
5	×	○	○	○	8.1	118	0.836	1.42abc	16.7	41.7	25.0	16.7	41.7abc
6	×	○	○	×	7.9	113	0.838	0.92c	25.0	58.3	16.7	0	16.7c
7	×	○	×	×	8.3	118	0.840	1.53ab	2.8	50.0	38.9	8.3	47.2ab
8	×	×	○	×	7.9	115	0.842	1.16bc	16.7	55.6	22.2	5.6	27.8bc
9	×	×	○	○	8.3	114	0.829	1.50abc	8.3	44.4	36.1	11.1	47.2ab
10	×	×	×	○	8.2	113	0.839	1.25bc	19.4	36.1	44.4	0	44.4ab
11	○	×	○	×	8.1	115	0.846	1.19bc	16.7	50.0	30.6	2.8	33.4bc
12	○	×	×	○	7.8	120	0.847	0.95c	27.8	52.8	16.7	2.8	19.5c
13	×	×	×	×	8.8	118	0.825	1.86a	5.6	27.8	41.7	25.0	66.7a

注: 1. ○印エチクロゼート, 100ppm散布, ×印無散布.

2. 着色歩合: 0(未着色)～10(完全着色)で評価した平均値.

3. 浮皮度: 0(無), 1(軽), 2(中), 3(甚)で評価した平均値.

4. 浮皮果発生率; 浮皮度2(中), 3(甚)の占める割合.

5. ダンカン多重検定; 数値末尾アルファベットの同一文字間有意差なし(5%).

め、他の殺菌剤等と混用散布することも行われる。一方、カンキツの果実は貯蔵中に水分の過度の逸脱を防いだり、貯蔵中に発生する浮皮現象を抑制するために、貯蔵前に果皮水分を数パーセント放出し、果肉の水分減少を防いでいる。この作業を果実が樹に着いている間に行おうという方法があり、樹上予措と呼ぶ。そのためには炭酸カルシウムの50倍液を収穫1週間前に立木全面散布する方法が行われる。

エチクロゼート剤による浮皮軽減処理では、同時に着色促進等の効果も発現する。品質向上をねらって比較的早期から使用される場合があるが、回数が増すと、樹勢を劣化させる傾向がある。樹の生育を眺めながら2,000~3,000倍の範囲で使用する。1回目はわずかに着色が始った蛭尻期で、2回目はその2週間後で全面散布する。葉量は樹の大きさや着葉状況によって異なり、10a当たり250~500lとするが、着葉の少ないものでは浮皮も少ないし、樹勢に及ぼす影響も大きくなるので、使用しない方が良い。

d. ハウス栽培における新梢発生促進及び着蕾促進

近年、果樹の施設栽培が急激に増加した。樹体生理と加温時期等に関する多くの研究が行われているが、露地栽培と環境が大きく異なるため、加温をしても発芽が十分に進まずに着花数が少なく、かつ不揃いで生産が上らない場合がある。これらの改善を目的にベンジルアデニン（ビーエー乳剤）が使用される。12月上旬加温を開始するハウス栽培で、萌芽や着花数が少ないと予想される場合には、100~200倍液を散布する。散布時期は、加温直後が適当である。このような処理により、白石らの報告では、処理3日後には一斉に発芽が開始されたとしている。

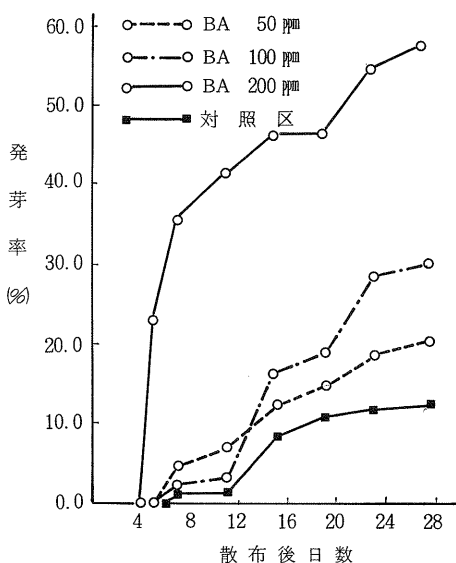


図1. 早期加温時にBAを散布した場合の発芽の促進（白石ら，1985）

一方、ハウス栽培では、収穫後に本格的なせん定作業を行う。そこで発生した新梢は結果母枝として使用されるが、やはり、生育の揃った充実した枝の発生が望まれる。しかし、この場合には、長い未熟な夏枝となる場合が多く、翌年の生産量が減少し、品質を低下させる原因となる。そこで、充実した新梢発生促進を目的として、本剤の100~200倍液を、萌芽直前~萌芽期に散布する。

何れの場合も、樹体の状況から見て、発生した新梢やつばみが栄養不足で脆弱である可能性が高い。栄養を補給するために液肥の併用を考える必要がある。また、花蕾や果実が奇形になったり、萌出した葉が小型化する場合もあって、濃度や、散布回数など、指定された使用方法を守る必要がある。

ベンジルアデニンと同様にサイトカニン活性を現す物質として、ホルクロルフエニユロン（フルメット液剤）があり、ブドウやキウイフルーツでベンジルアデニンと同様な使用方法が開発されている。現在、この薬剤もベンジルア

デニンと同様な発芽促進効果に対する検討が行われている。

2) その他のカンキツ類

雑柑類という呼び方は不適当と思われるように、ウンシュウミカンに代るカンキツ類として種々のカンキツ類の進出が目立つところである。ワシントンネーブルは雑柑とは言わないが、花が総状花序を形成し房状に着く、また、ネーブル(へそ)の名が示す様に果頂内部に重のうを形成し、果実の生理的な不安定が生じやすい。その結果、開花期から成熟期にかけての長期間にわたり生理落果を生じやすい。特に幼果の時期の落果防止は重要であり、ジベレリン(ジベレリン、ジベレリン粉末等)による防止対策が行われる場合がある。濃度は500ppm、満開10～20日後に幼果房に散布あるいは浸漬処理により、落果を軽減することができる。

イヨの仲間には生産性が高く、品質も良い宮内伊予柑、大谷伊予などの早生系イヨが中心となっている。これらのイヨやネーブルオレンジでは、収穫時期が遅れると厳寒期に入り、低温障害を起こす場合がある。これらの品種では、熟期促進を目的にエチクロゼート剤の利用が行われる。薬液の濃度は、2,000～3,000倍、ウンシ

ュウミカンと同様に2回散布が行われる。1回目は満開60～70日後、2回目は満開80～90日後が適期であり、10a当たり250～500l全面散布する。これらの処理により着色が早まり、熟期が促進されると同時に果皮色の赤味が強まる傾向が強い。

暖地に栽培されるポンカンやタンカンでは、内容的には十分成熟しても着色が不良な場合があり、着色が促進されれば収穫を早めることができる。これらの品種ではエテホンが用いられ、着色始期(蛍尻期)に1,000倍液を散布する。エテホンは落葉等の薬害を生じやすいので、1回処理とし、より強い効果を期待して濃度を高くすることのないように注意する必要がある。

カンキツの収穫は一般にハサミを用いる。収穫の省力化を実現するために、引きもぎ収穫に利用できる化学物質について多くの検討を行ったが、薬害や商品性、貯蔵性等の問題で実用化されたものは少なかった。ただ一つハッサクの果実の離層形成促進剤としてエテホンの利用が実用化された。しかし、ハッサクそのものの栽培面積が減少しているために、このような利用は少ない。使用法は、薬液濃度を500倍とし、収穫の3週間前に散布し、ハサミを使わずに

表4. MCPB処理が宮内イヨカンのヘタ落ち、ヘタ枯、果実品質におよぼす影響

(5月7日)(鈴木ら, 1983)

処 理 日	処 理 ^a	平均果重	ヘ タ 落 果 率	ヘタ着果中 の ヘタ枯果率	健全果率	果実比重	糖 度 計 示 度	クエン酸	糖 酸 比
収 穫 20 日 前 (12月1日)	MCPB 3,000 倍	217.5 ^g	12.1 [%]	54.2 [%]	37.0	0.7619	11.6	1.33	8.73
	MCPB 1,000 倍	209.6	3.1	32.4	65.4	0.7436	11.2	1.30	8.64
	2.4-D 30ppm	212.0	7.8	71.7	24.1	0.7424	11.6	1.34	8.62
	無 処 理	221.8	46.7	92.3	5.0	0.7456	11.7	1.32	8.86
収 穫 10 日 前 (12月12日)	MCPB 3,000 倍	249.7	1.6	90.0	9.9	0.7515	11.7	1.28	9.21
	MCPB 1,000 倍	253.9	6.6	65.0	33.0	0.7366	11.7	1.46	8.05
	2.4-D 30ppm	252.4	24.9	79.7	15.3	0.7706	11.4	1.44	7.76
	無 処 理	246.2	77.8	72.2	7.8	0.7336	11.8	1.44	8.06

注: a. 展着剤グラミン加用。

引きもぎ収穫を行う。散布回数を増やしたり濃度を高めると薬害を生じる可能性があるので、指示を確実に守る必要がある。

収穫後の貯蔵性については、貯蔵病害防止のための殺菌剤の樹上での散布が行われるが、多くの晩生カンキツ類では貯蔵中にヘタが枯れたり、離層が形成されて離落する場合が多い。このようなヘタ落ちを防止することを目的にMCPB（マデック）が用いられる。濃度は3,000倍で、収穫開始予定の20日程前に立木全面散布することになっているが、散布時期の決定が難しい。散布時期が遅れると、吸収移行が不十分で効果が低下することもあると考えられる。

3) カンキツ類全般

苗木を移植する場合に、枝葉からの水分の蒸散が多過ぎると活着が不良になり、いわゆる植傷みの状況を呈し、激しい場合には枯死する。このような過大な蒸散を抑制するには枝や葉の表面に薄い被膜を形成させることが必要である。オキシエチレン高級アルコール（OEDグリーン）は、10～40倍の濃度で苗木の掘り上げ時あるいは移植時に枝葉に散布するか、苗木の地上部を浸漬することにより、植え傷み防止や活着率の向上に効果がある。

4) パイナップル

パイナップルの開花促進ならびに熟期促進

パイナップルを常緑果樹というべきかどうかは別として、落葉が一斉に起こらない果物の中で、生育調節剤の利用が実用化されているのはカンキツ類とパイナップルである。わが国で栽培される常緑果樹には他にビワがあり、現在いくつかの生育調節に関する試験が行われているが、今後の検討課題となっている。

パイナップルの開花時期は不揃いになりやすく、開花をコントロールすることは重要な問題である。特に開花時期を揃えることにより、品質の均一な果実を同一時期に収穫することが可能になる。

開花の促進を期待する場合、エチレン処理を行う場合があるが、実用的にはカーバイト等を利用する。しかし、大量に効率的な処理を行うにはエテホンが用いられる。全面散布の場合、100～200倍液を、開花希望日の約40日前に、1株当たり25～50m^lを葉面に全面散布する。7%尿素液で希釈すると効果的であると言われている。葉芯部への薬液の注入も実行的に行われるが、この場合、200倍液を開花希望日の約40日前に1株当たり20～25m^l注入する。散布処理と同様に7%尿素液で希釈すると良い。

一方、熟期の促進を目的としてエテホンが使用される場合もある。濃度は200～300倍、果実の成熟初期に、1株当たり25～50m^lを果頂部冠芽に散布する方法が行われる。

常緑果樹への今後の開発方向

常緑果樹のカンキツ類に対しては、さらに安定した摘果効果を示す薬剤の開発が必要である。また、品質向上あるいは熟期促進を目的とした新たな薬剤や増糖剤、減酸剤等の開発も望まれている。さらに、省力化のために成長抑制剤の利用も重要であり、現在盛んに適用性の研究が行われている。

また、パイナップルについても甘味向上を中心とした品質向上剤の開発が望まれるところである。

らくらく散布で多年草も防除



®：日本モンサント(株)登録商標

容器のまま代かき時に

散布できる水田除草剤

デルカット®

(オキサジアゾン・ブタクロール除草剤)

乳剤

★安全で省力的な機械散布もできます。

——— デルカット普及会 ———

日産化学・北興化学・ローヌ・プーラン アグロ・日本モンサント
〈事務局〉 日産化学工業(株)農業事業部内 東京都千代田区神田錦町3-7-1

ひと足伸びた 馬力の一発。

シンザン粒剤は、処理適期幅が広く、農作業上極めて便利です。省力化の時代に応じて、今ここに新しいタイプの初中期一発処理除草剤の誕生です。

水田初中期一発処理除草剤

SINZAN シンザン® 粒剤

※：住友化学工業(株)・日本特殊農薬製造(株)・三井東圧化学(株)の共有登録商標

〈シンザン普及会〉

塩野義製薬／八洲化学工業／アグロス／
日本特殊農薬製造／住友化学工業／
(事務局)

三井東圧化学株式会社
東京都千代田区霞が関3-2-5

農薬は正しく使いましょう！

鋭い一発
雑草
ハンター



水田雑草の防除に

武田 **ゴルボ** 粒剤 17/25

- 広範囲の雑草を同時に防除できる、水田の総合除草剤です。
- 除草効果が強く、長期間雑草の発生を抑えます。
- 雑草の生育(伸長)を強く抑制します。
- 水稻に対する安全性の高い除草剤です。
- 環境に対する影響が少ない除草剤です。



水田除草、新時代

GORBO 17/25

ゴルボ普及会

武田薬品・日本チバガイギー・デュポン ジャパン リミテッド



「確かさ」で選ぶ…
バイエルの農薬

新しい時代のヒエ剤

® **ヒノクロア** 粒剤

メフェナセツ 4.0%

特長

- ① ヒエに安定した高い効果。
- ② 処理適期幅が広く使い易い。
- ③ 土壌吸着力に優れ、移植水稻に安全性が高い。
- ④ 残効性に優れる。
- ⑤ 毒性が低く人畜、魚介類に安全性が高い。

水田初・中期一発処理除草剤
処理適期幅が広く効果的



ザーク 粒剤



リードゾン



シンザン 粒剤

水田用中期除草剤

クロアSM 粒剤

®は登録商標

日本特殊農薬製造株式会社

東京都中央区日本橋本町2-7-1 ☎ 103

平成元年度水稲作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成元年度水稲作関係除草剤試験成績中央検討会は、平成元年12月14～15日の2日間、植調会館会議室において開催された。なお、適1試験は中央検討会に先がけ、平成元年10月12日植調会館にて開催された。これらの結果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適1)試験について

平成元年度の適1試験は、北海道地域(植調北海道試験地)、東北地域(植調古川試験地)、北陸地域(植調新潟第1試験地)、関東地域(植調研究所)、近畿地域(植調滋賀試験地)、中国地域(植調広島試験地)、九州地域(植調佐賀試験地)の全国7地域で34薬剤(のべ162点)について実施した。その判定結果は、第1表のとおりである。

2) 第2次適用性試験(適2)試験について

平成元年度の適2試験は、次のような試験区

分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前土壌混和処理(Ⅱ-1, 1剤6点)、移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 1剤9点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 14剤168点)、茎葉兼土壌処理(Ⅱ-4, 1剤15点)、適用時期拡大(Ⅱ-5, 12剤122点)、特殊雑草防除(Ⅱ-6, のべ78剤283点)、湛水直播栽培用(Ⅲ-1, 2剤7点)、乾田直播栽培用(Ⅲ-2, 1剤3点)、畦畔雑草用(Ⅳ, 6剤33点)、耕起前雑草用(Ⅴ, 2剤6点)、休耕田雑草用(Ⅵ, 1剤7点)、初期一発処理剤(Ⅶ-1, 31剤413点)、初・中期一発処理剤(Ⅶ-2, 21剤344点)、長期持続型一発処理剤(Ⅶ-3, 11剤91点)、少量散布(Ⅷ, 5剤24点)の総のべ点数が1,531点であった。これら適2試験の判定結果は第2表、実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第3表のとおりである。

第1表 平成元年度水稲作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表

No.	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
1	CGM-15D 〔三菱油化〕	粒 プレチラクロール 1.5 クロメプロップ 1.3 ジメタメトリン 0.2	◎	○	○	□	□	□	□	寒地・寒冷地○ノビエ1.5Lまで (一年生雑草・マツバイ・ホタルイ) 温暖地以西□〔薬害軽減〕
2	DH-101	粒 トリディフェン 1.0		□		□			△	□ノビエ1.5Lまで(ノビエ・ホタルイ対象・混合母剤として)

No.	薬 剤 名・剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今後の課題点等 〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
3	DH-108 粒 〔 ダウケミカル日本 〕	未公開 0.5 既知A 4 既知B 3		○		○			□	□ノビエ1～1.5 Lまで〔多年生雑草に対する効果・薬害軽減化〕
4	DH-109 粒 〔 ダウケミカル日本 〕	未公開 0.5 既 知 0.07		○		□			□	□ノビエ1.5 Lまで〔薬害発生条件の解明〕
5	DLH-069 粒 〔 ダイセル化学工業 〕	DLH-060 (未) 0.9 未公開 (既知) 5	○	○	□	□	□	□	□	寒地・寒冷地北部○ノビエ1 Lまで〔一年生雑草・マツバイ・ホタルイ〕〔効果・薬害〕 寒冷地南部以西□〔処理適期狭いが効果の持続性が優れるので活用 法検討〕
6	DM-72 BD① 粒 〔 日本モンサント*・デュポンジャパン 〕	MON-72 0.3 BAS-514 1 ペンシルフロンメチル 0.17 ダイムロン 1.5			◎ ↓ ○	○	○	◎	△	寒冷地南部～温暖地○ノビエ2.5 Lまで〔但し、ミズガヤツリ多発の場合はノビエ2 Lまで〕 暖地△〔効果・薬害軽減化〕
7	DM-72 D① 粒 〔 北興化学工業 〕	MON-72 0.4 既 知 0.17 ダイムロン 1.5			◎ ↓ ○	○	○	○	□	寒冷地南部～温暖地○ノビエ1.5 Lまで 暖地□〔効果・薬害の検討〕
8	DPX-47 粒 〔 デュポンジャパン 〕	未公開 (新規) 0.03	△	○	◎ ↓ ○	□	□	□	○	全域□〔カヤツリグサ科雑草対象・混合母剤として〕
9	DPX-48 粒 〔 デュポンジャパン 〕	未公開 (新規) 0.07 未公開 (既知) 1.5	□	○	◎ ↓ ○	○	○	□	□	全域□〔ノビエに対する効果・薬害の検討〕
10	DPX-84 BM 粒 〔 三菱油化 〕	ペンシルフロンメチル 0.25 BAS-514 0.7 ジメピペレート 5	○	◎		○				寒地～寒冷地○ノビエ2 Lまで〔但し、ミズガヤツリ多発田では早目に使用〕
11	DPX-84 BM① 粒 〔 三菱油化 〕	ペンシルフロンメチル 0.17 BAS-514 0.7 ジメピペレート 5			◎ ↓ ○	○	○	◎	○	寒冷地南部以西○ノビエ2 Lまで〔但し、ミズガヤツリ多発田では早目に使用〕
12	HOK-891 粒 〔 北興化学工業 〕	シメトリン 1.5 フェノチオール 0.7 SKH-301 0.3	□	○	□ ↓ △	△	□	△	△	全域□〔一年生広葉雑草に対する効果・薬害軽減化〕
13	KH-249 ① 粒 〔 アグロカネショウ 〕	KH-218 1.5 ピラゾレート 5 ACN 3	○	○	○	□	○	○	○	全域○ノビエ1.5 Lまで〔一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ〕〔ミズガヤツリへの効果〕

No	薬剤名・剤型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果 〔今後の課題点等〕
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
14	KH-255 粒 〔アグロカネショウ〕	KH-218 2 ペンシルフロンメチル 0.25	○	◎						寒地・寒冷地北部○ノビエ1.5 L まで〔一年生雑草・マツバイ・ホ タルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ〕
15	KH-255 ① 粒 〔アグロカネショウ〕	KH-218 2 ペンシルフロンメチル 0.17				○	□	□	○	寒冷地南部以西○ノビエ1.5 L まで〔薬害の検討〕
16	KPP-314 乳 〔科研製薬〕	未公開（新規） 12		◎		○			□	寒冷地～温暖地○雑草発生前（一 年生雑草・マツバイ） 暖地□〔薬害軽減化一使用量〕
17	KPP-314 粒 〔科研製薬〕	新規化合物 2	□	○	□	○	□	□	□	全域□ノビエ1 L まで〔一年生雑 草・マツバイ〕〔薬害の検討およ び効果の持続性優れるので活用法 検討〕
18	KUH-883 ① 粒 〔クミアイ化学工業〕	ベンチオカーブ 5.0 メフェナセット 1 ペンシルフロンメチル 0.17	◎	○	○	○	○	◎	◎	寒冷地南部以西○ノビエ2 L まで （一年生雑草・マツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ミズガヤツリ）
19	KUH-891 粒 〔クミアイ化学工業〕	ベンチオカーブ 5.0 MON-72 0.3 ペンシルフロンメチル 0.25	◎	◎						寒地・寒冷地北部◎ノビエ1.5～ 2 L まで〔一年生雑草・マツバイ・ ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツ リ〕
20	KUH-891 ① 粒 〔クミアイ化学工業〕	ベンチオカーブ 5.0 MON-72 0.3 ペンシルフロンメチル 0.17				◎	○			寒冷地南部・温暖地東部○ノビエ 1.5 L まで〔一年生雑草・マツバ イ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガ ヤツリ〕
21	MO フロアブル 〔三井東圧化学〕	CNP 40	○	○	○	○	○	□	□	全域○ノビエ発生始めまで〔一年 生雑草〕
22	NC-311 BCG-D 粒 〔日産化学工業*・日本 チバガイギー〕	NC-311 0.07 BAS-514 0.9 プレチラクロール 1.5 ジメタメトリン 0.2	◎	◎	◎	○	○	□	□	全域○ノビエ2.5 L まで〔高温時 の薬害の検討〕
23	NC-311 CG-D 粒 〔日産化学工業*・日本 チバガイギー〕	NC-311 0.07 プレチラクロール 2 ジメタメトリン 0.1	○	◎	◎	□	○			寒地～温暖地○ノビエ1.5 L まで 〔薬害の検討〕
24	NC-311 CG①-D 粒 〔日産化学工業*・日本 チバガイギー〕	NC-311 0.07 プレチラクロール 1.5 ジメタメトリン 0.2				○	○	○	△	温暖地○ノビエ1.5 L まで 暖地△〔薬害の検討〕

No	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今後の課題点等 〕
			北 海 道	東 北	北 陸	関 東	近 畿	中 国	九 州	
25	NC-311T® 粒 〔 日産化学工業*・日本 特殊農業製造 〕	NC-311 0.1 メフェナセット 4	○	○		□				寒地～温暖地東部○ノビエ2.5 L まで〔 多年生雑草効果向上 〕
26	NC-326 粒 〔 日産化学工業 〕	NC-311 0.17 エスプロカルブ 7 既知 0.3	○	○	◎	□				寒地～温暖地東部○ノビエ2 Lま で〔 多年生雑草効果向上・薬害 〕
27	NH-8911 粒 〔 日本農薬 〕	DPX-84 0.25 エスプロカルブ 5 BAS-514 1	□	◎		○				寒地～温暖地東部○ノビエ2.5 L まで
28	NH-8913 粒 〔 日本農薬 〕	DPX-84 0.25 エスプロカルブ 5 BAS-514 1 SAP 3	○	◎		○				寒地～温暖地東部○ノビエ2.5 L まで
29	NSK-852 粒 〔 徳山曹達・北興化学工 業 〕	NSK-850 0.65 ビフェノックス 4	○	○	□	□	□	□	□	寒地・寒冷地○ノビエ1 Lまで (一年生雑草・マツバイ・ホタル イ) 温暖地以西□〔 効果・薬害 〕
30	SPM-344® 粒 〔 日本モンサント*・住 友化学工業・三共 〕	プロモブチド 3 ピラゾレート 6 MON-72 0.4	□							寒地□〔 薬害軽減 〕
31	SW-665 粒 〔 三共 〕	未公開 計 6.65 (3種混合)	○	○	◎	○	○	○	□	寒地～温暖地○ノビエ1.5 L まで 〔 暖地薬害の検討 〕
32	TCG-128 乳 〔 東ソー 〕	TSH-888 12 プレチラクロール 8	○	○	◎	○	□	◎	△	寒地～温暖地○雑草発生前(一年 生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミ ズガヤツリ) 暖地△〔 薬害の検討 〕
33	TCG-88 乳 〔 東ソー 〕	TSH-888 8 プレチラクロール 8				○				温暖地東部○雑草発生前(一年生 雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズ ガヤツリ)
34	TH-913BSM 粒 〔 武田薬品工業 〕	TH-913 0.3 BAS-514 1 ダイムロン 5 MON-72 0.3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	□	寒地～温暖地◎ノビエ2.5 L まで 暖地□〔 早い処理時期での薬害・ ノビエ殺草幅 〕

注) 上記判定欄の記号については、◎; 極めて有望, ○; 有望, □; 可能性あり, △; 再検討, ×; 見込なし, を表わす。

第2表 平成元年度水稻作関係除草剤適2試験成績判定結果一覧表

区 分	判定	実	実・継	継	継?	中止
II-1.	移植前土壌混和処理			TCG-128乳		
II-2.	移植前後土壌処理		CG-113粒, (追加) YH-3粒.			
II-3.	移植後土壌処理		CG-113D粒, CG-155B①粒, CGM-15粒, CGM-15D粒, KH-218粒, KUH-883①粒, MSS-148①粒, SL-652粒, SUM-72粒, TSH-355粒, TSJ-756粒, Y-873粒, (追加) DPX-84A粒, DPX-84A①粒, DPX-84M粒, DPX-84M①粒.	JC-940粒, NSK-852粒,		
II-4.	茎葉兼土壌処理		BAS-514粒.			
II-5.	適用時期拡大		BAS-3510(Na)粒, BAS-3510(Na)①液, BAS-521粒, BAS-521水和, CG-SW①D粒, DPX-84①粒, DPX-84A①粒, MSS-148①粒, NC-311粒, NTN-806①粒, YH-455粒, (追加) DPX-84粒, DPX-84A粒, DPX-84M粒, DPX-84M①粒.	TH-913①粒.		
II-6-(1)	クログワイ対象		BAS-521水和, DPX-84A粒, <u>DPX-84B粒</u>, <u>DPX-84B①粒</u>, <u>DPX-84CG粒</u>, <u>DPX-84CG①粒</u>, <u>DPX-84SC①粒</u>, <u>DPX-84T粒</u>, <u>NC-311B①粒</u>, <u>NC-311R粒</u>, YH-3粒. (但し, 連年施用については継続検討) <u>DPX-84A①粒</u>, <u>DPX-84M粒</u>, <u>DPX-84M①粒</u>, <u>DPX-84SC粒</u>, <u>DPX-84TD①粒</u>. (連年施用についても「実・継」) BAS-3510(Na)①液, DPX-84粒, <u>DPX-84①粒</u>, <u>NC-311粒</u>. (連年施用についても, 徹底防除にもちいる剤として「実・継」)	(連年施用について継続検討) <初年目> NS-112・NS-112①粒, DM-72B粒, DM-72B①粒, NC-311BCG粒, NC-311BS粒, NC-311CG粒, NC-311CG①粒, NC-311T粒, NCM-72粒, TSJ-756粒. <2年目> BAS-521水和, DPX-84A粒, DPX-84B粒, DPX-84B①粒, DPX-84CG粒, DPX-84CG①粒, DPX-84SC①粒, DPX-84T粒, NC-311B①粒, NC-311R粒, YH-3粒.		
II-6-(2)	オモダカ対象		BAS-521粒, DPX-84B①粒. NC-311粒, NC-311B①粒. (但し, 連年施用については継続検討) <u>DPX-84①粒</u>, <u>DPX-84TD①粒</u>, <u>NC-311R粒</u>, <u>NCM-72粒</u>. (連年施用についても「実・継」)	DM-72B粒, DM-72B①粒. (連年施用について継続検討) <初年目> NC-311粒, NC-311B①粒, NC-311BCG粒, NC-311BS粒, NC-311CG粒, NC-311CG①粒, NC-311T粒.		

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-6-(3)	セリ対象		DM-72B粒, DM-72B①粒, DPX-84粒, DPX-84①粒, DPX-84B粒, DPX-84B①粒, NC-311粒, NC-311BS粒, NC-311T粒.			
II-6-(4)	ヒルムシロ 対象		DPX-84B①粒.			
II-6-(5)	シズイ対象		DM-72B粒, KUH-883粒, NC-311BCG粒, NC-311BS 粒, NC-311CG粒, NC-311R 粒.	YH-3粒.		
II-6-(6)	エゾノサヤ ヌカグサ対 象		KUH-883粒, NC-311BCG粒, NC-311BS粒, NC-311CG粒, NC-311T粒.			
II-6-(7)	クサネム対 象		DPX-84SC①粒, DPX-84TD ①粒, NC-311B①粒, NC-311 BCG粒, NC-311BS粒.			
II-6-(8)	コウキヤガ ラ対象		DPX-84TD①粒. NC-311BCG粒, NC-311BS 粒, NC-311T粒. (但し, 連年施用効果については 継続検討) DPX-84SC粒. (連年施用についても「実・ 継」)	(連年施用について継続検討) <初年目> NC-311BCG粒, NC-311BS 粒, NC-311T粒.		
II-6-(9)	キシウス ズメノヒエ 対象		BAS-521水和.			
III-1.	湛水直播		DPX-84A①粒, DPX-84M粒.			
III-2.	乾田直播		DPX-84A①粒.			
IV.	畦畔雑草		BGX-816水溶, MON-8794液, MW-831水溶, SC-224液, SL-236①乳.	HSP-891液.		
V.	耕 起 前		BGX-816水溶, MW-831水溶.			
VI.	休 耕 田		SC-224液.			
VII-1.	初期一発処理剤		CG-SW①D粒, DPX-84BM粒, DPX-84BM①粒, DPX-84CG 粒, DPX-84CG①粒, DPX-84 M粒, DPX-84SKH①粒, HSW-871粒, KH-249粒, KUH-883粒, MT-032粒, NC-311CG粒, NC-311CG① 粒, NC-311CG-D粒, NC-311 CG①-D粒, NCM-72粒, NJM-754粒, PSS①D粒, SPM-344粒, TJM-354粒, TSM-344粒, TSM-612フロ アブル, TSM-612①フロアブル.	DM-72粒, DM-72①粒, DM-72D①粒, NSK-850D粒, NSK-850D①粒, SKH-8602 ①粒, SPM-344①粒, SW- 665粒.		

判定 区分	実	実・継	継	継?	中止
VII-1. 初期一発処理剤 (つづき)		(追加) <u>TSM-344</u> ⑩粒.			
VII-2. 初・中期一発処理剤		<u>DM-72B</u> ⑩粒, <u>DPX-84B</u> 粒, <u>DPX-84B</u> ⑩粒, <u>DPX-84SC</u> 粒, <u>DPX-84SC</u> ⑩粒, <u>DPX-84TD</u> ⑩粒, <u>NC-311B</u> ⑩粒, <u>NC-311BCG</u> 粒, <u>NC-311BCG-D</u> 粒, <u>NC-311BS</u> 粒, <u>NC-311R</u> 粒, <u>NC-311R</u> ⑩粒, <u>NC-311T</u> 粒, <u>NC-311T</u> ⑩粒, <u>NC-YH</u> 粒, <u>TM-913BA</u> 粒, <u>TH-913BS</u> 粒, (追加) <u>DPX-84T</u> 粒, <u>NC-311BCG</u> ⑩粒, <u>NC-311SC</u> 粒.	<u>DM-72BD</u> ⑩粒, <u>KUH-882</u> 粒, <u>KUH-882</u> ⑩粒, <u>NC-311SC</u> ⑩粒.		
VII-3. 長期持続型一発処理剤		<u>DM-72B</u> 粒, <u>TSM-344</u> ⑩粒.	<u>KUH-891</u> 粒, <u>KUH-891</u> ⑩粒, <u>NC-326</u> 粒, <u>NH-727</u> 粒, <u>NH-728</u> 粒, <u>NH-8911</u> 粒, <u>TH-913BSM</u> 粒. <u>NC-311BCG</u> ⑩粒, <u>NC-311SC</u> 粒. (但し, VII-2として「実・継」)		
VIII-1. 少量散布法		<u>DPX-84B</u> 粒, <u>DPX-84B</u> ⑩粒, <u>DPX-84M</u> 粒, <u>DPX-84M</u> ⑩粒.			
VIII-2. 少量散布		<u>CG-113</u> 粒.			

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは, 薬剤名にアンダーラインを記した.

2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった.

第3表 平成元年度水稻関係除草剤使用基準一覧表

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-2. 移植前後土壌処理	① <u>CG-113</u> 粒 (ソルネット)	土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ. 〔但し, ミズガヤツリは寒地を除く. ヘラオモダカは温暖地東部以北.〕	<u>二7</u> ~ <u>二4</u> , +0~+10(ノビエ1.5Lまで). 〔但し, 寒地は <u>一5</u> ~+10, 温暖地西部早期は <u>二4</u> , +0~+10, 暖地早期は+0~ノビエ1Lまで, 暖地普通期は <u>一4</u> , +0~+7. ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで.〕	300 g/a	砂壤土~埴土(2cm/日以下). 〔但し, 寒地・寒冷地北部・温暖地早期・温暖地西部以西の普通期は砂壤土を除く. 温暖地西部普通期は(1cm/日以下). 暖地の砂壤土は(1.5cm/日以下).〕	

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-2. 移植前後土壌処理(つづき)	② YH-3 粒 〔II-6-(1) と併用(過 年度通り). (リーダール)	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ミズガヤツリ・ヘ ラオモダカ・クロ グワイ. 〔但し、ホタルイ は暖地普通期を 除く、ミズガヤ ツリは寒地を除 く、ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ、クログワ イは寒地・温暖 地早期を除く.〕	-3~+7(ノビ エ1Lまで). 〔但し、暖地は- 3~+5(暖地 普通期はノビエ 1.5Lまで). ホタルイ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ; 発生前~2 Lまで. クログワイ; 発生 始まで.〕	300~400 g/a 〔但し、暖 地のクロ グワイは 400g/a のみ.〕	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、寒 冷地以北 ・温暖地 西部早期 は砂壤土 を除く. 暖地は埴 土~埴土 (1cm/ 日以下).〕	(1) 深水での処理 はさける. (2) クログワイ防 除は、クログワ イに有効な後期 剤との組合せで 使用する.
II-3. 移植後土壌処理	① CG-113 D粒 (パレージ)	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ミズガヤツリ・ヘ ラオモダカ・アオ ミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地・ 温暖地のみ、ヘ ラオモダカは温 暖地東部以北の 普通期のみ、表 層剥離は暖地普 通期を除く.〕	+0~ノビエ1.5 Lまで. 〔但し、暖地は+ 3~ノビエ1.5 L.〕 ホタルイ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ; 発生始まで. アオミドロ・表層 剥離; 発生前. 〔但し、寒地は発 生前~始.〕	300g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以下). 温 暖地西部 ・暖地早 期は砂壤 土を除く. 暖地普通 期は埴埴 土~埴土.〕	
	② CG-155 B①粒 (セイラント*)	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・セリ. 〔但し、ウリカワ は温暖地東部早 期を除く、ミズ ガヤツリは寒冷 地・温暖地以西 の早期・温暖地 東部の普通期の み、ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ、セリは寒 地・温暖地東部 普通期のみ.〕	+3~ノビエ2L まで. 〔但し、暖地早期 は+5~ノビエ 1.5Lまで、暖 地普通期はノビ エ1.5Lまで.〕 ホタルイ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ; 2Lまで. 〔但し、温暖地東 部早期のミズガ ヤツリは発生前. 温暖地東部普通 期のミズガヤツ リは発生始まで. ウリカワ; 発生始 まで. 〔但し、寒冷地は 2Lまで. セリ; 再生前~始.〕	300g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以下). 寒 冷地は砂 壤土は除 く. 温暖 地東部の 早期は (1cm/ 日以下). 温暖地西 部の早期 は埴土~ 埴土(1 cm/日以下). 温 暖地西部 の普通期 は(1.5 cm/日以下). 暖 地の早期 は埴埴土 ~埴土 (1.5cm/ 日以下).〕	(1) ごく浅植えの 場合、薬害のお それがあるので 注意する.

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ-3. 移植後土壌処理(つづき)	② CG-155 B①粒 (つづき)						暖地の普通期は埴埴土(2cm/日以下).	
	③ CGM-15 粒 (センチ)	土 壌 処 理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ. 〔但し、ウリカワは暖地の普通期のみ。ミズガヤツリは温暖地東部普通期・温暖地西部・暖地のみ。ヘラオモダカは温暖地東部以北の普通期のみ。〕	+3~ノビエ1.5Lまで. ホタルイ; 2Lまで. 〔但し、寒冷地・温暖地西部早期・暖地普通期は発生始まで。ウリカワ; 2Lまで。ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。〔但し、寒地のヘラオモダカは2Lまで。〕	300 g/a	埴埴土~埴埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部の普通期・暖地は(1.5cm/日以下). 温暖地西部の早期は(1cm/日以下). 砂埴土(1.5cm/日以下). 〔但し、寒地・暖地の普通期のみ。温暖地西部の普通期は(1cm/日以下).〕	
	④ CGM-15 D粒	土 壌 処 理	温暖地以北の普通期・温暖地東部の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ウリカワは温暖地東部普通期のみ。ミズガヤツリは寒地・寒冷地を除く。ヘラオモダカは寒地のみ。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地東部の早期・温暖地西部普通期のみ。〕	+3~ノビエ1.5Lまで. 〔但し、寒冷地・温暖地西部はノビエ1Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始まで. 〔但し、寒地・温暖地東部普通期のホタルイは2Lまで。ヘラオモダカ; 2Lまで。アオミドロ・表層剥離; 発生前。〔但し、寒地は発生期。〕	300 g/a	砂埴土~埴埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部は(1cm/日以下). 寒地の砂埴土は(1.5cm/日以下). 温暖地東部早期は埴埴土~埴埴土(1cm/日以下). 温暖地東部普通期は埴埴土~埴埴土(埴埴土は1cm/日以下).〕	
	⑤ KH-218 粒	土 壌 処 理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ヘラオモダカ. 〔但し、ヘラオモダカは寒地のみ。〕	+3~ノビエ1.5Lまで. 〔但し、寒冷地北部・温暖地東部普通期は+3~+7(ノビエ1Lまで). ヘラオモダカ; 発	300 g/a	埴埴土~埴埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地東部早期は埴埴土~埴埴土(1.5	(1) コナギ多発田では早目に使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-3. 移植後土壌処理(つづき)	⑤ KH-218 粒 (つづき)				生始まで.		cm/日以下). 温暖地西部は(1cm/日以下). 暖地早期は砂壤土~埴土(1cm/日以下). 暖地普通期は埴土~埴土(1cm/日以下).	
	⑥ KUH-883 ①粒 (ウルフエース17*)	土壌処理	寒冷地南部以西の早期・普通期. 但し, 温暖地西部の早期を除く.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離. [但し, ミズガヤツリは温暖地西部を除く. ヘラオモダカは寒冷地南部のみ. ヒルムシロは温暖地東部普通期のみ. セリは温暖地普通期のみ. アオミドロ・表層剥離は温暖地東部早期・温暖地普通期のみ.]	+5~ノビエ2Lまで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2Lまで. [但し, 寒冷地は発生始まで. 暖地のミズガヤツリは発生始まで. ヘラオモダカ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 再生前~始. アオミドロ・表層剥離; 発生前. [但し, 温暖地西部は発生始まで.]	300g/a	砂壤土~埴土(2cm/日以下). [但し, 寒冷地南部は埴土~埴土(1cm/日以下). 温暖地東部早期は砂壤土を除く. 温暖地西部普通期・暖地早期は(1.5cm/日以下). 暖地普通期は埴土~埴土(1.5cm/日以下).]	(1) 著しい多雨条件下では除草効果が低下する場合がありますので, 使用はさしひかえる. (2) 植付精度不良で, 根が露出する水田では使用しない.
	⑦ MSS-148 ①粒 (ピリカーナL*)	土壌処理	温暖地西部以西の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ. [但し, ウリカワは温暖地西部普通期のみ. ミズガヤツリは暖地普通期を除く.]	+5~ノビエ2Lまで. ホタルイ; 2Lまで. [但し, 暖地のホタルイは発生始まで. ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始まで.]	300g/a	砂壤土~埴土(1.5cm/日以下). [但し, 温暖地西部普通期は(1cm/日以下). 温暖地西部早期は埴土~埴土(1cm/日以下). 暖地普通期は埴土~埴土(1cm/日以下).]	(1) 広葉多発田での使用は避ける.

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ—3. 移植後土壌処理 (つづき)	⑧ SL-652 粒 (グラナイス)	土壌処理	全域の早期・普通期。 但し、暖地の早期を除く。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。 但し、ウリカワは寒冷地北部・温暖地東部早期を除く。ミズガヤツリは寒地・寒冷地北部・温暖地東部早期を除く。ヘラオモダカは寒地のみ。ヒルムシロは寒冷地・温暖地東部早期を除く。アオミドロは寒冷地北部を除く。表層剥離は寒冷地北部・暖地を除く。	+3～ノビエ2Lまで。 但し、寒地・寒冷地・温暖地東部・暖地は+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ; 2Lまで。 但し、寒地は発生始まで。 ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ; 発生始まで。 但し、暖地のウリカワは2Lまで。 アオミドロ・表層剥離; 発生期。	300g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 但し、温暖地西部以西の普通期は(1.5cm/日以下)。 寒地・温暖地東部普通期の砂壤土は(1.5cm/日以下)。 温暖地東部早期は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。	(1) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土ではクロロシスの発生することがあるので注意する。
	⑨ SUM-72 粒 (ライトーン*)	土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。 但し、ミズガヤツリは温暖地のみ。ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部のみ。	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 但し、温暖地東部のホタルイは2Lまで。	300g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 但し、温暖地西部普通期・暖地早期は(1cm/日以下)。 寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。 寒冷地は砂壤土を除く。温暖地東部早期は砂壤土～埴土(1cm/日以下)。 埴土～埴土(1.5cm/日以下)。 温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。 暖地普通期は埴土～埴土(1cm/日以下)。	

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 3. 移植後土壌処理(つつき)	⑩ TSH-355 粒 (オリザガード)	土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ. 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く.〕	+3〜ノビエ1.5Lまで. ホタルイ; 2Lまで. 〔但し、寒冷地は発生始まで. ミズガヤツリ; 発生始まで.〕	300g/a	砂壤土〜埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部普通期は(1cm/日以下). 寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下). 寒冷地は砂壤土を除く. 温暖地西部早期は埴土〜埴土(1cm/日以下).〕	(1) 広葉多発田での使用はさける.
	⑪ TSJ-756 粒	土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ. 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地・温暖地のみ. ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部のみ.〕	+3〜ノビエ1.5Lまで. 〔但し、温暖地西部(近畿・中国)普通期は+5〜ノビエ1.5Lまで. ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで.〕	300g/a	埴土〜埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部以西は(1cm/日以下). 温暖地西部(近畿・中国)普通期・暖地早期は砂壤土(1cm/日以下)を含む.〕	(1) コナギ多発田では早目に使用する.
	⑫ Y-873 粒	土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ. 〔但し、ヘラオモダカは寒地のみ.〕	+3〜ノビエ1.5Lまで. ホタルイ; 2Lまで. 〔但し、寒地・温暖地西部早期は発生始まで. ヘラオモダカ; 発生始まで.〕	300g/a	砂壤土〜埴土(2cm/日以下). 〔但し、温暖地西部普通期・暖地は(1.5cm/日以下). 寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下). 温暖地西部の早期は埴土〜埴土(1cm/日以下).〕	(1) 広葉多発田での使用はさける.

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
II-3. 移植後土壌処理(つづき)	⑬ DPX-84 A粒 〔II-6-(1) と併用(過 年度通り). (ウルフ25)〕	土 壌 処 理	全域の普通 期・温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・エゾノサヤ スカグサ・シズイ・ アオミドロ・表層 剥離. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く. オモダカは 寒冷地・温暖地 東部普通期のみ. ヘラオモダカ・ アオミドロ・表 層剥離は寒冷地 以北のみ. クロ グワイ・シズイ は寒冷地のみ. ヒルムシロは寒 地・寒冷地・温 暖地西部のみ. エゾノサヤスカ グサは寒地のみ.〕	+5〜ノビエ2L まで. 〔但し、寒地はノ ビエ1.5Lまで.〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. オモダカ・クログ ワイ・ヒルムシロ; 発生始まで. エゾノサヤスカグ サ; 1〜4L(草 丈20cm以下). シズイ; 草丈2〜 3cmまで. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	g/a 300〜400 〔但し、400 はシズイ のみ.〕	砂壤土〜埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以下). 寒 冷地南部 ・温暖地 は砂壤土 を除く. 暖地は埴 壤土〜埴 土.	(1) 著しい多雨条 件では、除草効 果が低下する場 合があるので使 用はさしひかえ る. (2) オモダカ防除 はオモダカに有 効な剤との組み 合わせで使用す る. (3) クログワイ防 除は、クログワ イに有効な剤と の組み合わせで 使用する.
	⑭ DPX-84 A①粒 〔II-6-(1) と併用 (ウルフ17)〕	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・クサネム・ ヒメホタルイ・セ リ・コウキヤガラ・ アオミドロ・表層 剥離. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く. オモダカは 寒冷地南部・温 暖地の普通期・ 温暖地東部の早 期のみ. ヘラオ モダカは寒地の み. クログワイ は温暖地以西の 普通期のみ. ヒ ルムシロは温暖 地西部以西の早 期を除く. クサ ネムは寒冷地・ 温暖地の普通期 のみ. ヒメホタ ルイは暖地早期 のみ. コウキヤ ガラは温暖地東 部早期・暖地早 期のみ. セリは 温暖地普通期の み. アオミドロ・	+5〜ノビエ2L まで. 〔但し、寒冷地北 部以北はノビエ 1.5Lまで.〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. オモダカ; 発生始 まで. クログワイ; 発生 期. 〔但し、温暖地西 部は発生始.〕 ヒルムシロ; 発生 始まで. 〔但し、温暖地東 部は発生期.〕 クサネム; 発生前 〜本葉展開期. ヒメホタルイ; 発 生始まで. セリ; 再生前〜始 まで. コウキヤガラ; 発 生始〜盛期. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	g/a 300〜400 〔但し、寒 地と暖地 は300の み.〕	砂壤土〜埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、温 暖地西部 の普通期 と暖地早 期の砂壤 土は(1 cm/日以下). 寒 地・寒冷 地北部・ 温暖地西 部の早期 は砂壤土 を除く.〕	(1) 処理後24時間 以内から1日50 mm以上の降雨が 連続することが 予想される場合 は使用をさしひ かえる. (2) オモダカ防除 はオモダカに有 効な剤との組み 合わせで使用す る. (3) コウキヤガラ 防除は、コウキ ヤガラに有効な 剤との組み合わせ で使用する. (4) クログワイ防 除はクログワイ に有効な剤との 組み合わせで使 用する. (5) クログワイに 有効な剤との組 み合わせで連年 施用することに よりさらに効果 が向上する(温 暖地普通期).

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II-3. 移植後土壌処理 (つづき)	⑭ DPX-84 A㊦粒 (つづき)			表層剥離は寒冷地・温暖地西部普通期のみ。				
	⑮ DPX-84 M粒 〔II-6-(1) と併用。 (プッシュ25)〕	土壌処理	全域の早期・普通期。 〔但し、温暖地西部の早期は除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・クサネム・セリ・コウキヤガラ・シズイ・エゾノサヤヌカグサ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカ・クサネムは寒冷地・温暖地東部の普通期のみ。ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離は寒冷地以北のみ。クログワイは寒冷地・温暖地東部普通期・暖地のみ。セリ・シズイは寒冷地のみ。コウキヤガラは寒冷地北部のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始まで。 クログワイ; 発生期。 〔但し、寒冷地・温暖地東部普通期は発生始まで。〕 ヒルムシロ; 発生盛期まで。 〔但し、寒冷地は発生始まで。〕 クサネム; 発生前～本葉展開期。 セリ; 再生前～始。 コウキヤガラ; 発生始～発生盛期。 シズイ; 草丈2～3cmまで。 エゾノサヤヌカグサ; 1～4L(草丈20cm以下)。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	g/a 300～400 〔但し、400はシズイのみ。〕	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地・暖地・早期の砂壤土は(1.5cm/日以下)。 寒冷地・温暖地西部以西の普通期は砂壤土を除く。〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。 (2) <u>オモダカ防除はオモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。</u> (3) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) <u>クログワイに有効な剤との組み合わせで連年使用することによりさらに効果が向上する(温暖地東部普通期)。</u>
	⑯ DPX-84 M㊦粒 〔II-6-(1) と併用。 (プッシュ17)〕	土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・クサネム・ヒメホタルイ・セリ・コウキヤガラ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ウリカワは温暖地西部の早期を除く。ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地・温暖地の普通期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。クログワイは温暖地普通期・暖地のみ。ヒルムシロは温暖地以北の普通	+5～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地・寒冷地北部はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始まで。 クログワイ; 発生期。 〔但し、温暖地は発生始。〕 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、寒地は発生盛期まで。寒冷地は発生始まで。〕 クサネム; 発生始～盛期。 ヒメホタルイ; 発生始。	g/a 300～400 〔但し、寒地・暖地は300のみ。〕	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地・温暖地西部普通期の砂壤土は(1.5cm/日以下)。 暖地早期の砂壤土(1cm/日以下)。 寒冷地・温暖地西部早期は砂壤土を除く。〕	(1) <u>処理後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用をさしひかえる。</u> (2) <u>オモダカ防除はオモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。</u> (3) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) <u>クログワイに有効な剤との組み合わせで連年</u>

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
II-3. 移植後土壌処理(つづき)	⑯ DPX-84 M①粒 (つづき)			期・温暖地東部の早期のみ。クサネムは北陸・温暖地東部普通期のみ。ヒメホタルイは暖地普通期のみ。セリは寒冷地以西の普通期のみ。コウキヤガラは温暖地東部早期・暖地早期のみ。アオミドロは寒地・寒冷地・温暖地西部の普通期のみ。表層剥離は寒地・寒冷地・温暖地西部の早期のみ。	セリ; 再生前～始まで。 コウキヤガラ; 発生始～盛期まで。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。			<u>施用することによりさらに効果が向上する(温暖地普通期)。</u>
II-4. 茎葉兼土壌処理	① BAS-514 粒	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。 〔但し、暖地の早期を除く。〕	ノビエ。	+10～ノビエ3.5Lまで。 〔但し、寒地は+20～+30(ノビエ3Lまで)。寒冷地は+15～+20(ノビエ3.5Lまで)。温暖地東部は+15～+23(ノビエ3.5Lまで)。温暖地西部は+12～ノビエ3.5Lまで。〕	g/a 300～400 〔但し、温暖地のノビエ3L以降は400g/a。〕	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。温暖地西部以西の普通期は埴土～埴土(1cm/日以下)。〕	(1) ノビエ以外の草種に有効な剤と組み合わせて使用する。
II-5. 適用時期拡大	① BAS-3510 (Na)粒 (バサグラン)	茎葉処理	全域の早期・普通期。	一年生非イネ科雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地・温暖地東部普通期のみ。ヘラオモダカは温暖地西部以西の早期を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。シズイは寒	田植前後土壌処理した場合。 +55まで。 〔但し、早期を除く。温暖地西部は+50まで。暖地は+40まで。〕 一年生非イネ科; 生育期。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生盛期～増殖中期。 〔但し、寒地・温暖地西部以西の早期は発生盛期～増殖初期。〕	g/a 300～400	砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。 〔但し、寒地は(2cm/日以下)。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 落水もしくは浅水で使用する。 (3) 処理後の灌水は、48～72時間経過後に行なう。 (4) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 5	① BAS-3510 (Na) 粒 (つづき)			[冷地のみ。]	オモダカ; 発生始 ～発生盛期。 エゾノサヤヌカグ サ; 1~4L (草丈 20cm以下)。 シズイ; 草丈10~ 30cmまで。			
適用時期 拡大 (つづき)	② BAS-3510 (Na) ①液 [Ⅱ-6-(1)] と併用。 (バサグラン)	茎 葉 処 理	全域の早期・ 普通期。	一年生非イネ科雑 草・マツバイ・ホ タルイ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・オ モダカ・ヘラオモ ダカ・クログワイ・ エゾノサヤヌカグ サ・シズイ・コウ キヤガラ。 [但し, ミズガヤ ツリは寒地を除 く。オモダカは 寒冷地北部・温 暖地東部普通期・ 温暖地西部普通 期(四国)のみ。 ヘラオモダカは 寒冷地以北と温 暖地西部のみ。 クログワイは寒 冷地北部・温暖 地普通期・暖地 のみ。エゾノサ ヤヌカグサは寒 地のみ。シズイ は寒冷地北部の み。コウキヤガラ は寒冷地北部・ 暖地のみ。]	田植前後土壌処理 した場合。 +25~+55。 [但し, 温暖地東 部の早期とオモ ダカは+30~+ 40。温暖地西部 以西の早期は+ 25~+30。温暖 地西部普通期は +25~+50。暖 地普通期は+25 ~+40。クログ ワイは+20~+ 40→+30~+50 の2回散布。コ ウキヤガラ多発 田は+30→+45 の2回散布。] 一年生非イネ科; 生育期。 ホタルイ; 発生盛 期～増殖中期。 [但し, 寒地は発 生盛期～花茎抽 出期, 寒冷地北 部・暖地早期は 発生盛期～増殖 初期。] ウリカワ・ミズガ ヤツリ; 発生盛期 ～増殖中期。 [但し, 寒冷地北 部以北では発生 盛期～増殖初期。] オモダカ; 5~6 L期, 矢じり葉 4枚まで。 [但し, 寒冷地・ 温暖地西部では 発生盛期～増殖 初期。] ヘラオモダカ; 発 生盛期～増殖初 期。 クログワイ; 発生 盛期(草丈15~ 30cm以下)。 エゾノサヤヌカグ サ; 1~4Lまで(草 丈20cm以下)。 シズイ; 草丈10~ 30cm以下。 コウキヤガラ; 増 殖期。	ml/a 50 ~ 70	砂壤土～埴 土。	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する。 (2) 落水もしくは 浅水で使用する。 (3) 処理後の灌水 は48~72時間経 過後に行なう。 (4) 散布は水稻に なるべくかから ないようにする。 (5) 処理後2日以 内に降雨が予想 される場合は使 用をさしひかえ る。 (6) クログワイ防 除はクログワイ に有効な前処理 剤との組み合わせ で使用する。 (7) クログワイ徹 底防除には2回 散布の連年施用 する(全域の普 通期)。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II I 5. 適用時期拡大(つづき)	③ BAS-521 粒 〔II-6-(2) と併用.〕 (グラスゴン)	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・セリ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ. (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地・温暖地の普通期・温暖地西部の早期のみ。ヘラオモダカは寒冷地北部以北・温暖地西部普通期(近畿・中国)のみ。セリは温暖地東部早期を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。シズイは寒冷地北部のみ。)	田植前後土壌処理した場合. +20~+35(ノビエ3.5Lまで). (但し、寒地はノビエ3Lまで. 温暖地西部の早期は4Lまで.) ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; ; 4Lまで. (但し、温暖地西部以西のホタルイは花茎抽出始まで。温暖地西部早期・暖地のウリカワは5Lまで。温暖地西部早期のミズガヤツリは6Lまで。暖地のミズガヤツリは5Lまで. オモダカ; 矢じり葉2枚まで. (但し、温暖地西部普通期は生育初期4~5Lまで。温暖地西部早期は矢じり葉1枚まで. ヘラオモダカ; 3Lまで. セリ; 発生盛期~増殖初期. エゾノサヤヌカグサ; 1~4L(草丈20cm以下). シズイ; 草丈10~20cmまで.	300g/a	砂壤土~埴土(2cm/日以下). (但し、寒地・暖地早期の砂壤土は(1.5cm/日以下). 暖地普通期の砂壤土は(1cm/日以下). 温暖地の早期は砂壤土を除く.	(1) 前処理剤との組み合わせで使用. (2) 落水もしくは浅水で使用する. (3) 処理後の灌水は48~72時間経過後に行なう. (4) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる.
	④ BAS-521 水和 〔II-6-(1) II-6-(9) と併用.〕 (グラスゴン)	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・セリ・シズイ・エゾノサヤヌカグサ・キシユウスズメノヒエ. (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地のみ。ヘラオモダカは寒冷地北部以北のみ。クログワイは寒冷地北部・温暖地東部普通期のみ。セリは寒冷地北部・温暖地の普通期・	田植前後土壌処理した場合. +25~+40(ノビエ5.5Lまで). (但し、寒地はノビエ3.5Lまで. キシユウスズメノヒエは+14~+26. ホタルイ; 花茎抽出始まで. ウリカワ; 6Lまで. (但し、寒地は4Lまで。寒冷地は5Lまで.) ミズガヤツリ; 5Lまで. オモダカ; 矢じり葉4枚まで. ヘラオモダカ; 4	50g/a (但し、キシユウスズメノヒエは50~70g/a.)	砂壤土~埴土(2cm/日以下). (但し、砂壤土は寒冷地・温暖地普通期・暖地のみ。暖地早期の砂壤土は(1.5cm/日以下). 温暖地東部早期は埴土~埴土。温暖地西部早期は埴土~埴土(1cm/	(1) 前処理剤との組み合わせで使用. (2) 落水もしくは浅水で使用する. (3) 処理後の灌水は48~72時間経過後に行なう. (4) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる. (5) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる. (6) 散布は水稲になるべくかからないようにする.

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II I 5. 適用時期拡大(つづき)	④ BAS-521 水和 (つづき)			暖地のみ、エゾノサヤスカグサは寒地のみ、シズイは寒冷地北部のみ、キシウスズメノヒエは温暖地東部のみ。	Lまで。 クログワイ；発生盛期（草丈20cm以下）。 セリ；増殖初期～盛期。 シズイ；草丈20～30cm。 エゾノサヤスカグサ；1～4L（草丈20cm以下）。 キシウスズメノヒエ；草丈15～20cmまで。		日以下）。	(7) <u>クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組み合わせで使用する。</u>
	⑤ CG-SW ① D粒 (クサホープD)	土壌処理	寒冷地・温暖地東部の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地のみ、ヒルムシロは寒冷地北部のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 +10～+20（ノビエ1.5Lまで）。 〔但し、寒冷地北部は+10～+15（ノビエ1.5Lまで）。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ；発生始まで。 ウリカワ・ミズガヤツリ；2Lまで。 〔但し、寒冷地南部・温暖地のミズガヤツリは発生始まで。〕 ヒルムシロ；発生期。 アオミドロ・表層剥離；発生前～始。	300g/a	砂壤土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、砂壤土は寒冷地を除く。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生することがあるので注意する。
	⑥ DPX-84 ① 粒 〔II-6-(1) II-6-(2) II-6-(3) と併用。〕	土壌処理	寒冷地南部・温暖地南部の早期・普通期。 〔但し、暖地普通期はオモダカ・クログワイのみ適用。オモダカ；発生始まで。クログワイ；発生始。埴土～埴土（1cm/日以下）。〕	一年生非イネ科・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・セリ。 〔但し、オモダカは温暖地東部早期を除く。ヘラオモダカは寒冷地南部のみ。クログワイは温暖地の普通期のみ。ヒルムシロは温暖地東部普通期のみ。セリは寒冷地南部・温暖地東部普通期のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20。 〔但し、クログワイは+20～+25→+40～+45（2回処理）。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 〔但し、温暖地西部早期のホタルイは3Lまで。温暖地西部のミズガヤツリは3Lまで。〕 オモダカ；発生始まで。 クログワイ；発生盛～揃まで。 〔但し、温暖地東部普通期は発生始。〕 ヒルムシロ；発生	300g/a	埴土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部は（1cm/日以下）。温暖地西部普通期は砂壤土（1cm/日以下）を含む。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件下では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (3) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) オモダカに有効な剤との組み合わせで、連年施用することによりさらに効果が向上する（温暖地東部普通期・暖地普通期）。 (5) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 5. 適用時期 拡大(つづき)	⑥ DPX-84 ①粒 (つづき)				前・ セリ; 再生始.			組み合わせで使用 する. (6) クログワイ徹 底防除には2回 散布の連年施用 する(温暖地の 普通期).
	⑦ DPX-84 A ①粒 〔Ⅱ-6-(1) と併用. (ウルフ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部・ 温暖地の早 期・普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・コウキヤガ ラ. 〔但し、オモダカ は温暖地東部の 普通期のみ、ヘ ラオモダカは温 暖地西部の普通 期のみ、クログ ワイは温暖地普 通期のみ、ヒル ムシロは寒冷地 南部・温暖地東 部普通期のみ、 コウキヤガラは 温暖地東部の早 期のみ.〕	田植前後土壌処理 した場合. +15~+20(ノビ エ2Lまで). ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2Lまで. オモダカ・ヘラオ モダカ・クログワ イ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生 期. コウキヤガラ; 発 生始~盛まで.	300 g/a	砂壤土~埴 土(2 cm/ 日以下). 〔但し、温 暖地西部 の普通期 は(1.5 cm /日以下). 温暖地西 部の早期 は埴壤土 ~埴土 (1 cm/ 日以下).〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する. (2) 処理後24時間 以内から1日50 mm以上の降雨が 連続することが 予想される場合 は使用をさしひ かえる. (3) オモダカ防除 はオモダカに有 効な剤との組み 合わせで使用す る. (4) コウキヤガラ 防除は、コウキ ヤガラに有効な 剤との組み合わせ で使用する. (5) クログワイ防 除はクログワイ に有効な剤との 組み合わせで使 用する. (6) クログワイに 有効な剤との組 み合わせで連年 施用することに よりさらに効果が 向上する(温 暖地普通期).
	⑧ MSS-148 ①粒 (ピリカーナ L*)	土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地東部の 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ. 〔但し、ウリカワ は寒冷地のみ、 ミズガヤツリは温 暖地東部のみ.〕	田植前後土壌処理 した場合. +20~+25(ノビ エ2Lまで). ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 発生始まで. 〔但し、温暖地東 部のホタルイは 2Lまで.〕	300 g/a	砂壤土~埴 土(2 cm/ 日以下). 〔但し、寒 冷地は砂 壤土を除 く.〕	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する.
	⑨ NC-311 粒 〔Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(2) Ⅱ-6-(3) と併用. (シリウス)	土 壌 処 理	温暖地以北 の早期・普 通期. 〔但し、暖 地の普通 期はクロ グワイの み適用. クログワ イ; 発生	一年生非イネ科・ マツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ミ ズガヤツリ・オモ ダカ・ヘラオモダ カ・クログワイ・ ヒルムシロ・セリ. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く、オモダカは	田植前後土壌処理 した場合. +12~+20. 〔但し、クログワ イは+20~+25 →+35~+40 (2回処理).〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ オモダカ・ヘラオ	300 g/a	砂壤土~埴 土(2 cm/ 日以下). 〔但し、寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以 下).温 暖地東部 早期・温	(1) 前処理剤との 組み合わせで使 用する. (2) 著しい多雨条 件下では、除草 効果が低下する 場合があるので、 使用はさしひか える. (3) オモダカ防除

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5. 適用時期拡大(つづき)	⑨ NC-311 粒 (つづき)		始. 埴土 (1cm/ 日以下).	寒冷地北部・温暖地普通期・温暖地西部早期のみ。ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部・温暖地東部普通期のみ。クログワイは温暖地の普通期のみ。ヒルムシロは寒冷地のみ。セリは寒冷地北部・温暖地のみ。	モダカ; 2Lまで。 〔但し, 温暖地西部普通期のミズガヤツリは3Lまで。温暖地西部のオモダカは発生期。〕 クログワイ; 発生盛期～前期。 〔但し, 温暖地東部普通期は発生始。〕 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～増殖初。 〔但し, 寒冷地北部・温暖地東部は再生前～始。〕		暖地西部普通期は(1cm/日以下)。温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。	は, オモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) クログワイ徹底防除には2回散布の連年施用する(温暖地の普通期)。
	⑩ NTN-806 ①粒 (クロアSM)	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し, ミズガヤツリは寒地・暖地普通期を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは温暖地東部を除く。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地早期を除く。〕	田植前後土壌処理した場合。 +20～+25(ノビエ3Lまで)。 〔但し, 寒冷地以北はイネ5L期以降。寒地はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 3Lまで。 〔但し, 寒地・温暖地早期・温暖地東部普通期のホタルイは2Lまで。寒冷地北部・温暖地東部のミズガヤツリは発生始まで。寒地のヘラオモダカは2Lまで。〕 ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離; 発生期。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し, 寒地・温暖地東部の砂壤土は(1.5cm/日以下)。温暖地西部普通期の砂壤土は(1cm/日以下)。寒冷地北部は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)。暖地は(1.5cm/日以下)。	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 低気温および低水温時は薬害の危険性があるので使用はさける。 (3) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。 (4) MCP混合剤の注意事項を守る。 (5) ホタルイ・ミズガヤツリに有効な前処理剤と組み合わせる。
	⑪ YH-455 粒 (エイトパンチ)	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地・温暖地の普通期・暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し, ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部のみ。ヒルムシロは寒冷地南部・暖地を除く。アオミドロ・表層剥離は	田植前後土壌処理した場合。 +15～+25(ノビエ2.5Lまで)。 〔但し, 寒地はノビエ2Lまで。温暖地西部はノビエ3Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 3Lまで。 〔但し, 温暖地東部以北のホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリは	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し, 寒地・寒冷地北部は砂壤土を除く。温暖地西部以西は(1.5cm/日以下)。	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。 (3) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロシスの発生することがあるので注意する。 (4) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5. 適用時期拡大 (つづき)	⑪ YH-455 粒 (つづき)			寒冷地南部を除く。	2 Lまで。寒地のヘラオモダカは2 Lまで。 ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離；発生期。			(5) ミズガヤツリ防除はミズガヤツリに有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
	⑫ DPX-84 粒 (Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(3) と併用。)	土壌処理	温暖地東部以北の早期・普通期。 (但し、温暖地東部の普通期は低温時移植地帯に限る。温暖地西部(四国)の普通期はオモダカのみ適用；発生始まで。壌土～埴土(1 cm/日以下)。	一年生非イネ科・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・セリ・シズイ。 (但し、ミズガヤツリ・オモダカは寒地を除く。ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。クログワイ・シズイは寒冷地北部のみ。ヒルムシロは寒冷地を除く。セリは寒地・寒冷地北部のみ。	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20。 (但し、クログワイは+20～+25→+45～+50の2回散布。シズイは+20→+40の2回散布。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2 Lまで。 オモダカ・ヒルムシロ；発生始まで。 (但し、温暖地東部は発生前。 クログワイ；発生盛期。 セリ；再生始まで。シズイ；草丈0～3 cmまで。 アオミドロ・表層剥離；発生前～始。	300 g/a	壌土～埴土(2 cm/日以下)。 (但し、寒地は砂壌土(1.5 cm/日以下)を含む。)	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (3) オモダカ防除はオモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) <u>クログワイ徹底防除には2回散布で連年施用する(寒冷地北部)。</u>
	⑬ DPX-84 A粒 (Ⅱ-6-(1) と併用。 (ウルフ25)	土壌処理	寒地・寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・エゾノサヤスカグサ・シズイ・コウキヤガラ。 (但し、ミズガヤツリ・クログワイは寒冷地のみ。シズイは寒冷地北部のみ。オモダカ・コウキヤガラは寒冷地北部のみ。アオミドロ・表層剥離・エゾノサヤスカグサは寒地のみ。)	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20(ノビエ2 Lまで)。 (但し、寒地はノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2 Lまで。 オモダカ；発生始まで。 クログワイ；発生期。 ヒルムシロ；発生期。 (但し、寒地は発生始まで。 アオミドロ・表層剥離；発生前～始。 エゾノサヤスカグサ；1～4 L(草丈20 cm以下)。 シズイ；草丈2～3 cmまで。 コウキヤガラ；発生始～盛まで。	300 g/a	砂壌土～埴土(2 cm/日以下)。 (但し、砂壌土は寒冷地南部を除く。寒地の砂壌土は(1.5 cm/日以下)。	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (3) オモダカ防除はオモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 5. 適用時期拡大(つづき)	⑭ DPX-84 M粒 (II-6-(1) と併用. (プッシュ25)	土壌処理	寒地・寒冷地 〔但し、温暖地東部の普通期はクログワイのみ適用。クログワイ；発生始。壇壇土～壇土(1cm/日以下)〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・クログワイ・シズイ・セリは寒冷地のみ。エゾノサヤヌカグサ・アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20。 ノビエ；2Lまで。 〔但し、寒地は1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 クログワイ・セリ；発生始まで。 ヒルムシロ；発生期。 〔但し、寒地は発生始まで。〕 エゾノサヤヌカグサ；1～4Lまで(草丈20cm以下)。 シズイ；草丈2～3cmまで。 アオミドロ・表層剥離；発生前～始。	300 g/a	壇土～壇土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地は砂壇土(1.5cm/日以下)を含む。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。 (3) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することによりさらに効果が向上する(温暖地東部普通期)。
	⑮ DPX-84 M◎粒 (II-6-(1) と併用. (プッシュ17)	土壌処理	寒冷地南部。 〔但し、温暖地以西の普通期・暖地の早期はクログワイのみ適用；発生始。壇壇土～壇土(1cm/日以下)。但し、温暖地西部は砂壇土・壇土を含む。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	田植前後土壌処理した場合。 +15～+20(ノビエ2Lまで)。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2Lまで。	300 g/a	砂壇土～壇土(2cm/日以下)。	(1) 前処理剤との組み合わせで使用。 (2) 処理後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用をさしひかえる。 (3) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することによりさらに効果が向上する(温暖地以西の普通期)。
II 6 (1) クログワイ対象	① BAS-521 水和		〔II-5-④の項参照〕(但し、連年施用については継続検討)					
	② DPX-84 A粒		〔II-3-⑬およびII-5-⑬の項参照〕(但し、連年施用については継続検討)					
	③ DPX-84 A◎粒		〔II-3-⑭およびII-5-⑦の項参照〕					
	④ DPX-84 B粒		〔VII-2-②の項参照〕(但し、連年施用については継続検討)					
	⑤ DPX-84 B◎粒		〔VII-2-③の項参照〕(但し、連年施用については継続検討)					

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 (1) ク ロ グ ワ イ 対 象 (つづき)	⑥ DPX-84 CG粒		〔Ⅶ-1-④の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑦ DPX-84 CG ^① 粒		〔Ⅶ-1-⑤の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑧ DPX-84 M粒		〔Ⅱ-3-⑮およびⅡ-5-⑭の項参照〕					
	⑨ DPX-84 M ^① 粒		〔Ⅱ-3-⑯およびⅡ-5-⑮の項参照〕					
	⑩ DPX-84 SC粒		〔Ⅶ-2-④の項参照〕					
	⑪ DPX-84 SC ^① 粒		〔Ⅶ-2-⑤の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑫ DPX-84 T粒		〔Ⅶ-2-⑱の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑬ DPX-84 TD ^① 粒		〔Ⅶ-2-⑥の項参照〕					
	⑭ NC-311 B ^① 粒		〔Ⅶ-2-⑦の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑮ NC-311 R粒		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑯ YH-3 粒		〔Ⅱ-2-②の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑰ BAS-3510 Na ^① 液		〔Ⅱ-5-②の項参照〕					
	⑱ DPX-84 粒		〔Ⅱ-5-⑫の項参照〕					
Ⅱ 6 (2) オ モ ダ カ 対 象	⑲ DPX-84 ^① 粒		〔Ⅱ-5-⑥の項参照〕					
	⑳ NC-311 粒		〔Ⅱ-5-⑨の項参照〕					
	① BAS-521 粒		〔Ⅱ-5-③の項参照〕					
	② DPX-84 ^① 粒		〔Ⅱ-5-⑥の項参照〕					
	③ DPX-84 B ^① 粒		〔Ⅶ-2-③の項参照〕					
	④ DPX-84 TD ^① 粒		〔Ⅶ-2-⑥の項参照〕					
	⑤ NC-311 粒		〔Ⅱ-5-⑨の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					
	⑥ NC-311 B ^① 粒		〔Ⅶ-2-⑦の項参照〕(但し, 連年施用については継続検討)					

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 6 (2) (つづき)	⑦ <u>NC-311</u> R粒		〔Ⅶ-2-⑪の項参照〕					
	⑧ <u>NCM-72</u> 粒		〔Ⅶ-1-⑯の項参照〕					
Ⅱ 6 (3) セ リ 対 象	① <u>DM-72B</u> 粒		〔Ⅶ-3-①の項参照〕					
	② <u>DM-72B</u> ①粒		〔Ⅶ-2-①の項参照〕					
	③ <u>DPX-84</u> 粒		〔Ⅱ-5-⑫の項参照〕					
	④ <u>DPX-84</u> ①粒		〔Ⅱ-5-⑥の項参照〕					
	⑤ <u>DPX-84</u> B粒		〔Ⅶ-2-②の項参照〕					
	⑥ <u>DPX-84</u> B①粒		〔Ⅶ-2-③の項参照〕					
	⑦ <u>NC-311</u> 粒		〔Ⅱ-5-⑨の項参照〕					
	⑧ <u>NC-311</u> BS粒		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕					
	⑨ <u>NC-311</u> T粒		〔Ⅶ-2-⑬の項参照〕					
Ⅱ 6 (4) ヒ ル ム シ ロ 対 象	① <u>DPX-84</u> B①粒		〔Ⅶ-2-③の項参照〕					
Ⅱ 6 (5) シ ズ イ 対 象	① <u>DM-72B</u> 粒		〔Ⅶ-3-①の項参照〕					
	② <u>KUH-883</u> 粒		〔Ⅶ-1-⑩の項参照〕					
	③ <u>NC-311</u> BCG粒		〔Ⅶ-2-⑧の項参照〕					
	④ <u>NC-311</u> BS粒		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕					
	⑤ <u>NC-311</u> CG粒		〔Ⅶ-1-⑫の項参照〕					

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 6 (5) (つづき)	⑥ <u>NC-311</u> <u>R粒</u>		〔Ⅶ-2-⑮の項参照〕					
Ⅱ 6 (6) エゾノサヤヌカグサ対象	① <u>KUH-883</u> <u>粒</u>		〔Ⅶ-1-⑩の項参照〕					
	② <u>NC-311</u> <u>BCG粒</u>		〔Ⅶ-2-⑧の項参照〕					
	③ <u>NC-311</u> <u>BS粒</u>		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕					
	④ <u>NC-311</u> <u>CG粒</u>		〔Ⅶ-1-⑫の項参照〕					
	⑤ <u>NC-311</u> <u>T粒</u>		〔Ⅶ-2-⑬の項参照〕					
Ⅱ 6 (7) クサネム対象	① <u>DPX-84</u> <u>SC①粒</u>		〔Ⅶ-2-⑤の項参照〕					
	② <u>DPX-84</u> <u>TD①粒</u>		〔Ⅶ-2-⑥の項参照〕					
	③ <u>NC-311</u> <u>B①粒</u>		〔Ⅶ-2-⑦の項参照〕					
	④ <u>NC-311</u> <u>BCG粒</u>		〔Ⅶ-2-⑧の項参照〕					
	⑤ <u>NC-311</u> <u>BS粒</u>		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕					
Ⅱ 6 (8) コウキヤガラ対象	① <u>DPX-84</u> <u>SC粒</u>		〔Ⅶ-2-④の項参照〕					
	② <u>DPX-84</u> <u>TD①粒</u>		〔Ⅶ-2-⑥の項参照〕					
	③ <u>NC-311</u> <u>BCG粒</u>		〔Ⅶ-2-⑧の項参照〕（但し、連年施用については継続検討）					
	④ <u>NC-311</u> <u>BS粒</u>		〔Ⅶ-2-⑩の項参照〕（但し、連年施用については継続検討）					
	⑤ <u>NC-311</u> <u>T粒</u>		〔Ⅶ-2-⑬の項参照〕（但し、連年施用については継続検討）					
Ⅱ 6 (9) メノヒエ対象	① <u>BAS-521</u> <u>水和</u>		〔Ⅱ-5-④の項参照〕					

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅲ 1. 湛 水 直 播	① DPX-84 A①粒 (ウルフ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部・ 温暖地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヒルムシ ロ・セリ. 〔但し、ヒルムシ ロ・セリは温暖 地東部のみ。〕	イネ1L～ノビエ 2Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2Lまで。 〔但し、寒冷地南 部は発生始まで〕 ヒルムシロ; 発生 期。 セリ; 再生前～始.	300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/日 以下). 〔但し、温 暖地西部 は(1cm/ 日以下).〕	(1) ホタルイ多発 田では、ホタル イに有効な中・ 後期剤との組み 合わせて使用する。
	② DPX-84 M粒 (プッシュ25)	土 壌 処 理	寒地・寒冷 地北部.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ・ アオミドロ・表層 剥離. 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。ヒルムシロ・ アオミドロ・表 層剥離は寒地の み。〕	イネ1L～ノビエ 2Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生 期。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/日 以下).	
Ⅲ 2. 乾 田 直 播	① DPX-84 A①粒 (ウルフ17)	土 壌 処 理	温暖地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ.	入水後2日～ノビ エ2Lまで。 〔但し、温暖地東 部は入水後4日 ～ノビエ2Lま で。〕	300 g/a	壤土～埴土 (2.5 cm/ 日以下) 〔但し、温 暖地東部 は埴壤土 ～埴土 (2 cm/ 日以下).〕	
Ⅳ 畦 畔 雑 草	① BGX-816 水溶 (インパルス*)	茎 葉 処 理	全域.	全草種.	雑草生育期(草丈 30cm以下).	40～60 g/a	全土壌.	(1) ノリ面散布は さける。 (2) 流入、飛散等 による水稲への 薬害に注意する。
	② MON-8794 液 (ポラリス)	茎 葉 処 理	全域.	全草種.	雑草生育期(草丈 20～30cm)	寒冷地以北; 30～50 ml/a 温暖地以西; 40～50 ml/a 少量散布 (希釈水量 2.5 l/a) でも有効 (全域).	全土壌.	(1) ノリ面散布は さける。 (2) 流入、飛散等 による水稲への 薬害に注意する。 (3) 少量散布の場 合は専用の散布 機を用いる。
	③ MW-831 水溶 (ハービエー ス)	茎 葉 処 理	全域.	全草種.	雑草生育期(草丈	50～75g/a	全土壌.	(1) ノリ面散布は さける。 (2) 流入、飛散等 による水稲への 薬害に注意する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
IV 畦畔 雑草(つぎ)	④ SC-224 液 (タッチダウン)	茎葉 処理	寒冷地以西.	全草種.	雑草生育期(草丈 20~30cm)	m ^l /a 20~40	全土壌.	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入, 飛散等 による水稲への 被害に注意する.
	⑤ SL-236 ①乳	茎葉 処理	全域.	一年生イネ科雑草・ キシウウスズメノ ヒエ. (但し, キシュウ スズメノヒエは 温暖地以西.)	雑草生育期(草丈 30cm以下)	寒冷地以北・ 温暖地西部; 20~40 m ^l /a. 温暖地東部; 20~30 m ^l /a. 暖地; 30~ 40m ^l /a. キシウウス ズメノヒエ に対して20 日間隔で20 m ^l →20m ^l の2回使用 をしてもよい(暖地).	全土壌.	(1) ノリ面散布は さける. (2) 流入, 飛散等 による水稲への 被害に注意する.
V 耕起 前 雑草	① BGX-816 水溶 (インパルス*)	茎葉 処理	寒冷地以西.	一年生雑草.	耕起前20日以前 (雑草生育期).	40~60g/a	全土壌.	(1) 周辺の作物に 飛散しないよう に注意する.
	② MW-831 水溶 (ハービエース)	茎葉 処理	寒冷地以西.	一年生雑草.	耕起前20日以前 (雑草生育期).	温暖地以北; 30~75 g/a. 暖地; 50~ 75g/a.	全土壌.	(1) 周辺の作物に 飛散しないよう に注意する.
VI 休 耕 田	① SC-224 液 (タッチダウン)	茎葉 処理	寒冷地・温 暖地.	全草種.	雑草生育期(草丈 30cm以下).	寒冷地; 40 ~80m ^l / a. 温暖地; 60 ~80m ^l / a.	全土壌.	(1) 周辺の作物に 飛散しないよう に注意する.
VII 1. 初期一 発処理剤	① CG-SW ①D粒 (クサホープ D)	土 壌 処理	寒冷地以西 の早期・普 通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ・ アオミドロ・シャ ジクモ・ウキクサ・ 表層剥離. (但し, ヘラオモ ダカは寒冷地・ 温暖地東部のみ. ヒルムシロは温 暖地西部の早期・ 暖地を除く. 表 層剥離は暖地を 除く. シャジク モは温暖地東部 のみ. ウキクサ は温暖地西部の み.)	+3~ノビエ2L まで. (但し, 寒冷地南 部の砂壤土水田 では+7~ノビ エ2Lまで. ホタルイ・ウリカ ワ; 2Lまで. (但し, 寒冷地・ 温暖地東部のホ タルイは発生始 まで. ミズガヤツリ・ヘ ラオモダカ; 発生 始まで. ヒルムシロ; 発生 期. アオミドロ・シャ ジクモ・ウキクサ・表 層剥離; 発生前.	300 g/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下). (但し, 砂 壤土は温 暖地西部 の早期を 除く. 暖 地の早期 は(1cm/ 日以下). 暖地普通 期の砂壤 土は(1 cm/日以下).	(1) 泥炭質土壌で は, ウリカワに 対する効果が低 下することがあ る. (2) 著しい高温条 件下の砂壤土水 田ではクロロシ スの発生するこ とがあるので注 意する. (3) 田植前に生育 したミズガヤツ リは, 完全に防 除してから使用 する.

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初期一発処理剤(つづき)	② DPX-84 BM粒	土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地北部のみ。〕	+5〜ノビエ2 L まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで。 ヒルムシロ; 発生期。	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む。〕	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。
	③ DPX-84 BM①粒	土壌処理	寒冷地南部以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・セリ。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地南部のみ。ヒルムシロ・セリは温暖地東部普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地・温暖地西部普通期のみ。〕	+5〜ノビエ2 L まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 L まで。 〔但し、寒冷地南部は発生始まで。〕 ヘラオモダカ; 発生始。 ヒルムシロ; 発生期。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。 セリ; 再生前〜始。	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部以西は (1.5 cm/日以下)。 暖地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む。〕	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	④ DPX-84 CG粒 〔Ⅱ-6-(1)と併用。 (ゴルボ25)〕	土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・セリ・エゾノサヤスカグサ・シズイ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ・シズイは寒冷地北部のみ。エゾノサヤスカグサは寒地のみ。〕	+5〜ノビエ1.5 L まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで。 オモダカ; 発生始まで。 クログワイ; 発生始。 ヒルムシロ: 発生期。 セリ; 再生前〜始。 エゾノサヤスカグサ; 1〜4 L まで (草丈20cm以下)。 シズイ; 草丈0〜3 cm。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む。〕	(1) 著しい多雨条件下では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (3) オモダカ防除はオモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	⑤ DPX-84 CG①粒 〔Ⅱ-6-(1)と併用。 (ゴルボ17)〕	土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ウリカワ・ミズガヤツリは	+3〜ノビエ1.5 L まで。 〔但し、寒冷地南部の砂壤土では +7〜ノビエ1.5 L まで。暖地は +5〜ノビエ1.5 L まで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	300 g/a	砂壤土〜埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地は砂壤土を除く。温暖地西部早期は (1 cm/日以	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。 (3) オモダカ防除

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初期一発処理剤(つづき)	⑤ DPX-85 CG①粒 (つづき)			寒地をのぞく、オモダカは寒冷地・温暖地東部普通期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。クログワイは温暖地以西の普通期のみ。ヒルムシロは温暖地東部早期・暖地を除く。セリは寒冷地北部・温暖地東部普通期・温暖地西部のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地北部・温暖地東部普通期・暖地を除く。	ヘラオモダカ; 2 L まで。 〔但し、寒冷地北部・温暖地西部早期のホタルイ、寒冷地北部のウリカワ・ヘラオモダカは発生始まで。オモダカ; 発生始まで。クログワイ; 発生始。ヒルムシロ; 発生期。〔但し、寒地のヒルムシロは2 L まで。セリ; 再生前～始。アオミドロ・表層剥離; 発生前。〕		下)。暖地早期は埴壤土～埴土(1 cm/日以下)。暖地普通期は埴壤土～埴土。	は、オモダカに有効な剤との組み合わせで使用。 (4) <u>田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する。</u> (5) <u>クログワイ防除は、クログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。</u>
	⑥ DPX-84 M粒 (プッシュ25)	土壌処理	温暖地東部以北の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・アオミドロ・表層剥離・セリ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリは寒地のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地以北のみ。〕	+5～ノビエ2 L まで。 〔但し、寒地・寒冷地は+7～ノビエ2 L まで。ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで。ヒルムシロ; 発生期。アオミドロ・表層剥離; 発生前。エゾノサヤヌカグサ; 1～4 L (草丈20cm以下)。セリ; 再生前～始。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、寒地の砂壤土は(1.5 cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。〕	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。
	⑦ DPX-84 SKH⑩粒	土壌処理	寒地・寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離・セリ。 〔但し、ウリカワ・アオミドロ・表層剥離・セリは寒地のみ。ミズガヤツリは寒冷地のみ。〕	+5～ノビエ2 L まで。 〔但し、寒地はノビエ1.5 L まで。ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで。ヒルムシロ; 発生期。〔但し、寒冷地は発生始まで。アオミドロ・表層剥離; 発生前。セリ; 再生前～始。〕	300 g/a	埴土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初期一発処理剤(ついき)	⑧ HSW-871 粒 (クサホープ D 95)	土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地北部のみ。ヒルムシロは寒地のみ。〕	+3〜ノビエ 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2 L まで. 〔但し、寒冷地北部は発生始まで。〕 ミズガヤツリ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発定期. アオミドロ・表層剥離; 発生前〜始.	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下ではクロロシスの発生することがあるので注意する。
	⑨ KH-249 粒	土壌処理	温暖地以北の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリは温暖地のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。〕	+3〜ノビエ 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. 〔但し、温暖地西部のホタルイは 2 L まで。〕 アオミドロ・表層剥離; 発生前〜盛期.	300 g/a	砂壤土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、砂壤土は寒地・温暖地西部を除く。温暖地西部は (1 cm/日以下).〕	
	⑩ KUH-883 粒 〔II-6-(5) II-6-(6) と併用. (ウルフェース)	土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ・セリ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリ・シズイは寒冷地北部のみ。セリ・エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。〕	+5〜ノビエ 2 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで. ヒルムシロ; 発定期. エゾノサヤヌカグサ; 発生始まで. シズイ; 草丈 2〜3 cm まで. セリ; 再生前〜始. アオミドロ・表層剥離; 発生始. 〔但し、寒冷地北部は発生前。〕	300 g/a	砂壤土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、寒地の砂壤土は (1.5 cm/日以下).〕	(1) 著しい多雨条件下では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。
	⑪ MT-032 粒 (エリードン)	土壌処理	全域の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ. 〔但しウリカワは温暖地東部を除く。ミズガヤツリは寒地・温暖地普通期を除く。ヘラオモダカは寒冷地北部以北のみ。〕	+3〜ノビエ 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2 L まで. 〔但し、寒冷地北部のホタルイ・ヘラオモダカ、寒冷地のウリカワは発生始まで。〕 ミズガヤツリ; 発生始まで.	300 g/a	砂壤土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、砂壤土は寒地・暖地早期 (1.5 cm/日以下). 温暖地東部普通期のみ。温暖地西部早期は (1 cm/日以下). 温暖地西部	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初期一発処理剤(つづき)	⑪ MT-032 粒 (つづき)						普通期・暖地は (1.5 cm/日以下).	
	⑫ NC-311 CG 粒 (Ⅱ-6-(5) と併用. (ライザー-20))	土壌処理	温暖地東部以北の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ・セリ・アオミドロ・表層剥離. (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは温暖地東部早期を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。シズイは寒冷地北部のみ。セリは寒冷地南部を除く。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地東部普通期のみ.)	+5~ノビエ 2 L まで. (但し、寒冷地以北・温暖地東部の早期は 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. (但し、寒地のホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ、温暖地東部のホタルイ・ミズガヤツリは 2 L まで. ヒルムシロ; 発生期. エゾノサヤヌカグサ; 発生始. シズイ; 発生前~始. セリ; 再生前~始. アオミドロ・表層剥離; 発生前.	300 g/a	砂壤土~埴土 (2 cm/日以下). (但し、寒冷地は砂壤土を除く。寒地の砂壤土は (1.5 cm/日以下).)	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。 (3) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	⑬ NC-311 CG ①粒 (ライザー-15)	土壌処理	温暖地西部以西の早期・普通期. (但し、暖地の早期を除く.)	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離. (但し、ヒルムシロは温暖地西部早期・暖地普通期のみ。セリは暖地を除く。アオミドロ・表層剥離は温暖地西部普通期のみ.)	+3~ノビエ 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 L まで. (但し、温暖地西部のホタルイ・ウリカワは発生始まで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 再生前~始. アオミドロ・表層剥離; 発生前.	300 g/a	埴土~埴土 (2 cm/日以下). (但し、温暖地西部早期は (1 cm/日以下). 暖地普通期は埴土~埴土 (1 cm/日以下).)	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する。
	⑭ NC-311 CG-D 粒	土壌処理	寒地・寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・アオミドロ・表層剥離. (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカ・エゾノサヤヌカグサ・セリは寒地のみ.)	+5~ノビエ 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 発生始まで. (但し、寒地のホタルイ・ウリカワは 2 L まで. ヘラオモダカ; 2 L まで. ヒルムシロ; 発生期. エゾノサヤヌカグサ; 発生始. セリ; 再生前~始. アオミドロ・表層剥離; 発生前.	300 g/a	埴土~埴土 (2 cm/日以下). (但し、寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む.)	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
VII 1. 初期一発 処理剤(つづき)	⑮ NC-311 CG①-D 粒	土 壤 処 理	温暖地西部 の普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・アオミド ロ・表層剥離.	+3〜ノビエ 1.5 Lまで. ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2 Lまで. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	壤土〜埴土 (1 cm/日 以下).	(1) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる.
	⑯ NCM-72 粒 { II-6-(2) と併用. (カルコーン*) }	土 壤 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ・ セリ・アオミドロ・ 表層剥離. (但し, ミズガヤ ツリは寒地を除く. ヘラオモダカは 寒冷地以北・温 暖地東部普通期 のみ. オモダカは 寒冷地北部・温 暖地の普通期のみ. ヒルムシロは寒 冷地・温暖地東 部の早期・暖地 の早期を除く. セ リは寒地・寒冷 地北部・温暖地 東部の普通期・ 温暖地西部の 早期のみ. アオミ ドロ・表層剥離 は寒地のみ.)	+3〜ノビエ 1.5 Lまで. ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. (但し, 寒冷地の ホタルイ, 寒冷 地・温暖地東部 のウリカワ・ミ ズガヤツリ・ヘ ラオモダカは発 生始まで. オモダカ; 発生 始まで. ヒルムシロ; 発生 期. セリ; 再生前〜始. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	砂壤土〜埴 土(2 cm/ 日以下). (但し, 砂 壤土は寒 冷地・温 暖地東部 普通期・ 温暖地西 部早期を 除く. 寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以 下). 温 暖地西部 早期は (1 cm/ 日以下). 温暖地西 部普通期・ 暖地早期 は(1.5 cm/日以 下). 暖 地普通期 は埴土 〜埴土 (1.5 cm/ 日以下).	(1) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる. (2) オモダカ防除 はオモダカに有 効な剤との組み 合わせで, さらに 効果が向上する (寒冷地・温 暖地東部普通期). (4) 田植前に生育 したミズガヤツ リは, 完全に防 除してから使用 する.
	⑰ NJM-754 粒	土 壤 処 理	全域の普通 期・温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ・ アオミドロ・表層 剥離. (但し, ウリカワ は寒冷地・温暖 地東部の早期を 除く. ミズガヤ ツリは寒地・温 暖地東部の早期 を除く. ヘラオ モダカは寒冷地 以北のみ. ヒル ムシロは寒冷地 ・温暖地東部を 除く. アオミド ロ・表層剥離は 寒地のみ.)	+3〜ノビエ 1.5 Lまで. ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. (但し, 寒冷地の ホタルイ・ミズ ガヤツリ・ヘラ オモダカ, 温暖 地東部普通期の ウリカワは発生 始まで. ヒルムシロ; 発生 期. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日 以下). (但し, 温 暖地西部 は(1 cm/ 日以下). 暖地は (1.5 cm/ 日以下). 温暖地東 部早期は 埴土(1 cm/日以 下). 温 暖地東部 普通期は 砂壤土〜 埴土(1.5 cm/日以 下). 埴 土〜埴 土.	(1) 田植前に生育 したミズガヤツ リは完全に防除 してから使用する.

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初期一発処理剤(つづき)	⑮ PSS-①D 粒 (スラッシュ*)	土壌処理	寒冷地以西の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地南部・温暖地東部の早期・暖地普通期を除く。ヘラオモダカは寒冷地北部のみ。ヒルムシロは寒冷地北部・温暖地東部普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は暖地を除く。〕	+3〜ノビエ2 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 L まで. 〔但し、温暖地東部普通期のウリカワは発生始まで. ヘラオモダカ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生期. アオミドロ・表層剥離; 発生前〜始.	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、暖地普通期は埴壤土〜埴土 (1 cm/日以下). 温暖地西部以西は (1 cm/日以下). 温暖地東部は砂壤土 (2 cm/日以下) を含む.〕	(1) ミズガヤツリの多い水田では早めに散布する.
	⑯ SPM-344 粒 (ウリデン*)	土壌処理	寒冷地以西の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ. 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地・温暖地東部普通期・暖地のみ。ヘラオモダカは寒冷地のみ.〕	+3〜ノビエ1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. 〔但し、温暖地東部のホタルイ、温暖地東部普通期のウリカワ、暖地のホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリは2 L まで.〕	300 g/a	埴土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、温暖地西部は (1 cm/日以下). 暖地は (1.5 cm/日以下). 温暖地東部早期は砂壤土 (2 cm/日以下). 暖地早期は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む.〕	(1) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する.
	⑳ TJM-354 粒	土壌処理	全域の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ. 〔但し、ウリカワは温暖地東部を除く。ミズガヤツリは寒地・温暖地東部を除く。ヘラオモダカ・ヒルムシロは寒冷地以北のみ.〕	+1〜ノビエ1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで. 〔但し、寒冷地のホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ、温暖地東部のホタルイは発生始まで. ヒルムシロ; 発生期.	300 g/a	埴土〜埴土 (2 cm/日以下). 〔但し、暖地は埴壤土〜埴土 (1 cm/日以下). 温暖地は (1 cm/日以下). 寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む.〕	(1) ミズガヤツリの多い水田では早目に散布する. (2) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する.

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初期一発処理剤(つづき)	㊸ TSM-344 粒	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ。ヒルムシ ロは温暖地東部 早期・温暖地西 部普通期・暖地 早期を除く。〕	+3〜ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2. Lまで。 〔但し、寒冷地の ホタルイ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ・ヘラオモ ダカ、温暖地東 部早期のウリカ ワ、温暖地東部 のミズガヤツリ は発生始まで。 ヒルムシロ; 発生 期。〕	300 g/a	砂壤土〜埴 土(2 cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地早期 は砂壤土 を除く。 温暖地西 部早期は (1 cm/ 日以下)。 温暖地西 部普通期 ・暖地は (1.5 cm/ 日以下)。 寒地・温 暖地東部 普通期の 砂壤土は (1.5 cm/ 日以下)。	(1) 田植前に生育 したミズガヤツ リは、完全に防 除してから使用 する。
	㊸ TSM-612 フロアブル (シーゼット)	土 壌 処 理	全域の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地・暖 地を除く。ヘラ オモダカは寒冷 地以北のみ。ヒ ルムシロは温暖 地東部早期・温 暖地西部・暖地 早期を除く。〕	+3〜ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2 Lまで。 〔但し、寒冷地以 北のホタルイ・ ウリカワ・ミズ ガヤツリ、温暖 地東部のミズガ ヤツリ、温暖地 西部早期のホタ ルイは発生始ま で。 ヘラオモダカ; 発 生始まで。 ヒルムシロ; 発生 期。〕	100 ml/a 〔但し、寒 冷地以北 は100〜 120 ml/a。 温暖地西 部普通期 は80〜100 ml/a。〕	砂壤土〜埴 土(2 cm/ 日以下)。 〔但し、寒 冷地以北 ・温暖地 早期は砂 壤土を除 く。温暖 地西部早 期は(1 cm/日以 下)。暖 地は(1.5 cm/日以 下)。	(1) 広葉多発田で の使用はさける。 (2) 水田全面に均 一に散布する。 (3) 田植前に生育 したミズガヤツ リは、完全に防 除してから使用 する。
	㊸ TSM-612 ⑩ フロアブル	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ヘラオ モダカ・ヒルムシ ロ。	+3〜ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 ヒルムシロ; 発生 期。	100 ml/a	壤土〜埴土 (2 cm/日 以下)。	(1) 水田全面に均 一に散布する。
	㊸ TSM-344 ⑩粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ヘラオ モダカ・ヒルムシ ロ。	+3〜ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生 期。	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日 以下)。	

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤	① DM-72B ①粒 〔Ⅱ-6-(3) と併用。 (ワーキング*)〕	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部 以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地南部のみ。ヒルムシロは寒冷地南部・温暖地東部・暖地普通期を除く。セリは温暖地西部普通期・暖地を除く。アオミドロ・表層剥離は温暖地西部以西のみ。〕	+5～ノビエ2.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒冷地南部・温暖地東部普通期・温暖地西部早期は砂壤土を除く。寒冷地南部・温暖地西部早期・暖地は(1cm/日以下)。暖地普通期は埴土～埴土(1cm/日以下)〕。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	② DPX-84 B粒 〔Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(3) と併用。 (ロザール25)〕	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・シズイ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ・シズイは寒冷地北部のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。〕	+5～ノビエ2.5Lまで。 〔但し、寒地は+10～+20(ノビエ2.5L)まで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ・アオミドロ・表層剥離; 発生始まで。 クログワイ; 発生始。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ; 1～4L(草丈20cm以下)まで。 セリ; 再生前～始。シズイ; 草丈0～3cm。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)〕。	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (2) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組み合わせで使用。 (3) シズイ防除はシズイに有効な剤との組み合わせで使用。 (4) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用。
	③ DPX-84 B①粒 〔Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(2) Ⅱ-6-(3) Ⅱ-6-(4) と併用。 (ロザール17)〕	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部 以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、オモダカは寒冷地南部・温暖地東部のみ。クログワイは温暖地以西の普通期のみ。ヒルムシロ・セリは暖	+5～ノビエ2.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始まで。 クログワイ; 発生始。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地東部早期・温暖地西部普通期は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)〕。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。 (2) オモダカ防除はオモダカに有効な剤との組み合わせで使用。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 2. 初 ・ 中 期 一 発 処 理 剤 (き)	③ DPX-84 B ①粒 (つづき)			地の普通期を除く。アオミドロ・表層剥離は温暖地東部早期・暖地を除く。			暖地は埴壤土～埴土(1cm/日以下)。	(4) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	④ DPX-84 SC 粒 (Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(8) と併用。 (フジガラス 25)	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地北部。 (但し、温暖地東部普通期はクログワイのみ適用。クログワイ; 発生始。埴壤土～埴土(1cm/日以下)。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・コウキヤガラ・アオミドロ・表層剥離。 (但し、ミズガヤツリ・クログワイ・セリ・コウキヤガラは寒冷地北部のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。)	+5～ノビエ 2.5 L まで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ 2 L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで。 クログワイ; 発生始。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ; 1～4 L(草丈20cm以下)。 セリ; 再生前～始。 コウキヤガラ; 発生始～盛。 アオミドロ・表層剥離; 発生始まで。	300 g/a	埴土～埴土(2cm/日以下) (但し、寒地は砂埴土(1.5cm/日以下)を含む。	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。 (2) コウキヤガラ防除はコウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (3) コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで、連年施用することによりさらに効果が向上する(寒冷地北部)。 (4) クログワイ防除は、クログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する(温暖地東部普通期)。
	⑤ DPX-84 SC ①粒 (Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(7) と併用。 (フジガラス 17)	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・クログワイ・ヒルムシロ・セリ・クサネム・アオミドロ・表層剥離。 (但し、クログワイは温暖地以西の普通期のみ。ヒルムシロは温暖地東部・温暖地西部以西の早期を除く。セリは寒冷地南部・温暖地普通期・暖地早期のみ。クサネムは寒冷地南部のみ。アオミドロ・表層剥離は温暖地東部・温暖地西部普通期のみ。	+3～ノビエ 2.5 L まで。 (但し、寒冷地南部の砂埴土は+7～ノビエ 2.5 L まで。温暖地西部以西は+5～ノビエ 2.5 L まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 L まで。 クログワイ; 発生始。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。 クサネム; 発生始～本葉展開期。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂埴土～埴土(2cm/日以下)。 (但し、温暖地東部早期は(1cm/日以下)。 暖地は(1.5cm/日以下)。 温暖地西部早期は埴壤土～埴土(1cm/日以下)。	(1) 処理後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用をさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する。 (3) クログワイ防除は、クログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初・中期 一発処理剤(つづき)	⑥ DPX-84 TD①粒 (Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(2) Ⅱ-6-(7) Ⅱ-6-(8) と併用. (ザーク D17)	茎葉 兼土壌 処理	寒冷地南部 以西の早期・ 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・セリ・クサ ネム・コウキヤガ ラ・アオミドロ・ 表層剥離. (但し、オモダカ・ ヘラオモダカは 寒冷地南部・温 暖地東部普通期 のみ。クログワ イは温暖地以西 普通期のみ。ヒ ルムシロは温暖 地東部早期を除 く。セリは寒冷 地南部・暖地普 通期を除く。ク サネムは寒冷地 南部のみ。コウ キヤガラは暖地 普通期のみ。ア オミドロ・表層 剥離は寒冷地南 部・温暖地東部 早期・温暖地西 部普通期のみ。)	+5〜ノビエ3 L まで。 (但し、温暖地東 部以北・温暖地 西部早期は+5 〜ノビエ2.5 L まで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ オモダカ・ヘラオ モダカ; 2 Lまで。 (但し、温暖地東 部普通期のオモ ダカ・ヘラオモ ダカは発生始ま で。 クログワイ; 発生 始。 ヒルムシロ; 発生 期。 セリ; 再生前〜始。 クサネム; 発生始 〜本葉展開期。 コウキヤガラ; 発 生始。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前。	300 g/a	砂壤土〜埴 土(2 cm/ 日以下)。 (但し、温 暖地西部 早期は (1 cm/ 日以下)。 暖地は (1.5 cm/ 日以下)。	(1) 植付精度不良 で、根が露出す る水田では使用 しない。 (2) 処理後24時間 以内から1日50 mm以上の降雨が 連続することが 予想される場合 は使用をさしひ かえる。 (3) オモダカ防除 は、オモダカに 有効な剤との組 み合わせで使用 する。 (4) オモダカに有 効な剤との組み 合わせで、連年 施用することに よりさらに効果 が向上する(温 暖地東部普通期)。 (5) 田植前に生育 したミズガヤツ リは、完全に防 除してから使用 する。 (6) コウキヤガラ 防除はコウキヤ ガラに有効な剤 との組み合わせ で使用する。 (7) クログワイ防 除は、クログワ イに有効な剤と の組み合わせで 使用する。 (8) クログワイに 有効な剤との組 み合わせで連年 施用することに よりさらに効果 が向上する(温 暖地の普通期)。
	⑦ NC-311 B①粒 (Ⅱ-6-(1) Ⅱ-6-(2) (前年通り) Ⅱ-6-(7) と併用. (サーベイヤ)	茎葉 兼土壌 処理	全域の早期・ 普通期. (但し、暖 地の早期 を除く.)	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・エゾノサヤ ヌカグサ・セリ・ クサネム・アオミ ドロ・表層剥離. (但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。オモダカは 寒冷地北部・温 暖地東部普通期 のみ。ヘラオモ	+5〜ノビエ2.5 Lまで。 (但し、寒地は+ 10〜+20(ノビ エ2 L)まで。 温暖地東部の砂 壤土は+7〜ノ ビエ2.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ オモダカ・ヘラオ モダカ; 2 Lまで。 (但し、暖地西 部のヘラオモダ カは発生始まで。 クログワイ; 発生	300 g/a	埴土〜埴土 (2 cm/ 日以下)。 (但し、暖 地は(1.5 cm/日以 下)。温 暖地西部 早期は (1 cm/ 日以下)。 寒地・温 暖地東部 普通期は 砂壤土 (1.5 cm/ 日以下)。	(1) 処理後24時間 以内から1日50 mm以上の降雨が 連続することが 予想される場合 は使用をさしひ かえる。 (2) オモダカ防除 は、オモダカに 有効な剤との組 み合わせで使用 する。 (3) 田植前に生育 したミズガヤツ リは、完全に防 除してから使用

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤(つづき)	⑦ NC-311 B①粒 (つづき)			ダカは寒冷地以北・温暖地西部普通期のみ。クログワイは温暖地以西の普通期のみ。ヒルムシロは温暖地東部を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。セリは全域の普通期のみ。クサネムは寒冷地南部と温暖地東部普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。	始。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ; 発生始。 セリ; 再生前～始。 クサネム; 発生始～本葉展開期。 アオミドロ・表層剥離; 発生始。		日以下)を含む。温暖地東部早期は砂壤土～埴土(1cm/日以下)。温暖地西部普通期は砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。	する。 (4) <u>クログワイ防除は、クログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。</u>
	⑧ NC-311 BCG粒 (Ⅱ-6-(5) Ⅱ-6-(6) Ⅱ-6-(7) Ⅱ-6-(8) と併用。 (イナズマ)	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。 (但し、暖地の早期を除く。)	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・コウキヤガラ・セリ・シズイ・クサネム・アオミドロ・表層剥離。 (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒地・寒冷地・温暖地西部普通期のみ。ヒルムシロは温暖地東部早期を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。コウキヤガラ・シズイは寒冷地北部のみ。セリは寒地・温暖地以西の普通期・温暖地西部の早期のみ。クサネムは寒冷地南部・温暖地東部普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地東部普通期のみ。	+5～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ2L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 (但し、温暖地西部のヘラオモダカは発生始まで。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ・コウキヤガラ; 発生始。 セリ; 再生前～始。 シズイ; 発生前～始期。 クサネム; 発生始～本葉展開期。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 (但し、温暖地西部普通期は(1.5cm/日以下)。寒地・寒冷地は砂壤土を除く。温暖地東部早期の砂壤土は(1cm/日以下)。温暖地西部普通期は埴土～埴土(1cm/日以下)。暖地は埴土～埴土(1.5cm/日以下)。	(1) 処理後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用をさしひかえる。 (2) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。 (4) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	⑨ NC-311 BCG-D 粒	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 (但し、ミズガヤ	+5～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ2L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。	300g/a	埴土～埴土(2cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期 一発処理剤 (つづき)	⑨ NC-311 BCG-D 粒 (つづき)			ツリは寒地を除く。エゾノサヤヌカグサ・セリは寒地のみ。	ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ; 発生始。 セリ; 再生前～始。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。			
	⑩ NC-311 BS粒 (<u>II-6-(3)</u> <u>II-6-(5)</u> <u>II-6-(6)</u> <u>II-6-(7)</u> <u>II-6-(8)</u>) と併用。 (ボルサー)	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。 (但し、暖地の早期を除く。)	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・コウキヤガラ・シズイ・セリ・クサネム・アオミドロ・表層剥離。 (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは寒冷地南部・温暖地東部早期を除く。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。コウキヤガラ・シズイは寒冷地北部のみ。セリは温暖地西部普通期を除く。クサネムは寒冷地南部・温暖地東部普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地東部普通期のみ。	+5～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ2L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ・コウキヤガラ; 発生始。 シズイ; 発生前～始期。 セリ; 再生前～始。 クサネム; 発生始～本葉展開期。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 (但し、寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。温暖地東部早期は(1cm/日以下)。温暖地西部は埴土～埴土(1cm/日以下)。暖地は埴土～埴土(1cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。 (3) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	⑪ NC-311 R粒 (<u>II-6-(1)</u> <u>II-6-(2)</u> <u>II-6-(5)</u>) と併用。 (ベルーフ)	茎葉兼土壌処理	温暖地東部以北の普通期。 (但し、温暖地西部以西普通期はクログワイのみ適用。クログワイ; 発生始。埴土～埴土(1cm/日以下)。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・シズイ。 (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地北部・温暖地東部普通期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。クログワイは温暖地東部普通期のみ。ヒルムシロは寒地・温暖地東部	+7～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ2L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生始まで。 クログワイ; 発生始。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ; 発生始。 セリ; 再生前～始。 シズイ; 発生前～始期。	300 g/a	埴土～埴土(2cm/日以下)。 (但し、温暖地東部普通期は砂壤土(2cm/日以下)を含む)。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。 (2) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (3) オモダカに有効な剤との組み合わせで、連年施用することによりさらに効果が向上する(寒冷地北部・温暖地東部普通期)。 (4) クログワイ防除はクログワイ

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ — 2. 初・中期 — 一 発 処 理 剤 (つづき)	⑪ NC-311 R粒 (つづき)			普通期のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。シズイは寒冷地北部のみ。				に有効な剤との組み合わせで、使用する。 (5) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	⑫ NC-311 R⑩粒	茎葉兼土壌処理	温暖地東部以北の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロ・セリは寒地・温暖地東部普通期のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。〕	+7～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地は+10～+20(ノビエ2 L)まで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ; 発生始。 セリ; 再生前～始。	300 g/a	壤土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地東部普通期は砂壤土(2 cm/日以下)を含む。〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。
	⑬ NC-311 T粒 〔Ⅱ-6-(3) Ⅱ-6-(6) Ⅱ-6-(8) と併用。 (アクト)〕	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。 〔但し、暖地の早期を除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・コウキヤガラ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒地・寒冷地北部・温暖地西部普通期のみ。ヒルムシロは寒地・寒冷地北部・温暖地以西の普通期・温暖地西部早期のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。セリは寒地・寒冷地北部・温暖地東部普通期・温暖地西部のみ。コウキヤガラは寒冷地北部のみ。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地東部普通期・暖地普通期のみ。〕	+5～ノビエ3 Lまで。 〔但し、寒地は+10～ノビエ2 Lまで。寒冷地・温暖地は+5～ノビエ2.5 Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 〔但し、温暖地西部のヘラオモダカは発生始まで。〕 ヒルムシロ; 発生期。 エゾノサヤヌカグサ・コウキヤガラ; 発生始。 セリ; 再生前～始。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂壤土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部以西の普通期は(1.5 cm/日以下)。寒地の砂壤土は(1.5 cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土～埴土(1 cm/日以下)。〕	(1) 処理後24時間以内から1日50 mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用をさしひかえる。 (2) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (3) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。 (4) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤(つづき)	⑭ NC-311 T⑩粒	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ウリカワ・セリ・アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。〕	+5〜ノビエ2.5Lまで。 〔但し、寒地は+10〜ノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前〜始。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土〜埴土(2cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。
	⑮ NC-YH 粒	茎葉兼土壌処理	寒冷地・温暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地のみ。ヒルムシロは寒冷地・温暖地東部普通期・温暖地西部(四国)の普通期のみ。セリは温暖地普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は温暖地東部普通期のみ。〕	+5〜ノビエ2.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前〜始。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土〜埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部普通期は砂埴土〜埴土(1cm/日以下)。温暖地普通期は埴土〜埴土(1cm/日以下)。〕	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
	⑯ TH-913 BA粒	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。 〔但し、暖地早期を除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは温暖地東部早期・温暖地西部普通期を除く。アオミドロ・表層剥離は寒冷地・温暖地東部早期・暖地を除く。〕	+5〜ノビエ2.5Lまで。 〔但し、寒地は+10〜+20(ノビエ2L)まで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前〜始。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土〜埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地東部早期・温暖地西部普通期は埴土〜埴土(1cm/日以下)。温暖地西部早期は(1cm/日以下)。温暖地東部普通期は砂埴土(2cm/日以下)を含む。暖地普通期は埴土〜埴土(1.5cm/日以下)。〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤(つづき)	⑰ TH-913 BS粒	茎葉兼土壌処理	全域の早期・普通期。 (但し、暖地の早期を除く。)	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは温暖地東部早期を除く。セリは暖地を除く。アオミドロ・表層剥離は寒地・温暖地東部普通期のみ。)	+5～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ2L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 (但し、温暖地東部早期のウリカワは発生始まで。ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土～埴土(2 cm/日以下)。 (但し、温暖地西部は1 cm/日以下)。温暖地東部早期は埴土～埴土(1 cm/日以下)。温暖地東部普通期は砂壤土(2 cm/日以下)を含む。暖地普通期は埴土～埴土(1 cm/日以下)。	(1) 処理後24時間以内から1日50 mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用をさしひかえる。 (2) 田植前に生育したミズガヤツリは完全に防除してから使用する。
	⑱ DPX-84 T粒 (Ⅱ-6-(1)と併用。 (ザーク25))	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・セリ・アオミドロ・表層剥離・コウキヤガラ。 (但し、ミズガヤツリ・オモダカは寒冷地のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。クログワイ・セリ・コウキヤガラは寒冷地北部のみ。)	+5～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地はノビエ2Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ・クログワイ; 発生始まで。ヒルムシロ; 発生期。 (但し、寒地は発生始まで。 アオミドロ・表層剥離; 発生前～始。 (但し、寒冷地は発生始。 エゾノサヤヌカグサ; 1～4 L(草丈20 cm以下)。 セリ; 再生前～始。コウキヤガラ; 発生始～盛期。	300 g/a	壤土～埴土(2 cm/日以下)。 (但し、寒地は砂壤土(1.5 cm/日以下)を含む。)	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。 (3) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで使用する。 (4) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組み合わせで使用する。 (5) クログワイ防除は、クログワイに有効な剤との組み合わせで使用する。
	⑲ NC-311 BCG®粒	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地北部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 (但し、ミズガヤツリは寒地を除く。アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。)	+5～ノビエ2.5Lまで。 (但し、寒地は+10～+20(ノビエ2L)まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 セリ; 再生前～始。アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	壤土～埴土(2 cm/日以下)。	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VII 2. 初・中期一発処理剤(つづき)	⑳ NC-311 SC粒	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く. アオミドロ・表層剥離は寒地のみ.〕	+5〜ノビエ 2.5 L まで. 〔但し、寒地は+10〜+20(ノビエ 2 L) まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 再生前〜始. アオミドロ・表層剥離; 発生前.〕	300 g/a	壤土〜埴土(2 cm/日以下).	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる.
	㉑ DM-72B 粒 〔II-6-(3) II-6-(5) と併用. (ワーキング*)〕	茎葉兼土壌処理	寒地・寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリ・シズイ・アオミドロ・表層剥離. 〔但し、ミズガヤツリ・シズイは寒地を除く.〕	+5〜ノビエ 2.5 L まで. 〔但し、寒地は+10〜+20(ノビエ 2 L) まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで. ヒルムシロ; 発生期. セリ; 再生前〜始. シズイ; 草丈 2〜3 cm まで. アオミドロ・表層剥離; 発生期.〕	300 g/a	壤土〜埴土(2 cm/日以下).	(1) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる.
VII 3. 長期持続型一発処理剤	㉒ TSM-344 ㊸粒	土壌処理	寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ.	+3〜ノビエ 1.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで. ヒルムシロ; 発生期.	300 g/a	壤土〜埴土(2 cm/日以下).	
	㉓ DPX-84 B粒 (ロザール25)	茎葉兼土壌処理	寒冷地北部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ.	田植前後に初期剤を少量散布した場合. +5〜ノビエ 2.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで.	300 g/a	砂壤土〜埴土(2 cm/日以下).	(1) 初期剤を前処理に少量散布(200 g/a)することにより除草効果向上. (2) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる.
VIII 1. 少量散布法	㉔ DPX-84 B㊸粒 (ロザール17)	茎葉兼土壌処理	寒冷地南部.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ.	田植前後に初期剤を少量散布した場合. +5〜ノビエ 2.5 L まで. ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 L まで.	300 g/a	砂壤土〜埴土(2 cm/日以下).	(1) 初期剤を前処理に少量散布(200 g/a)することにより除草効果向上. (2) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる.

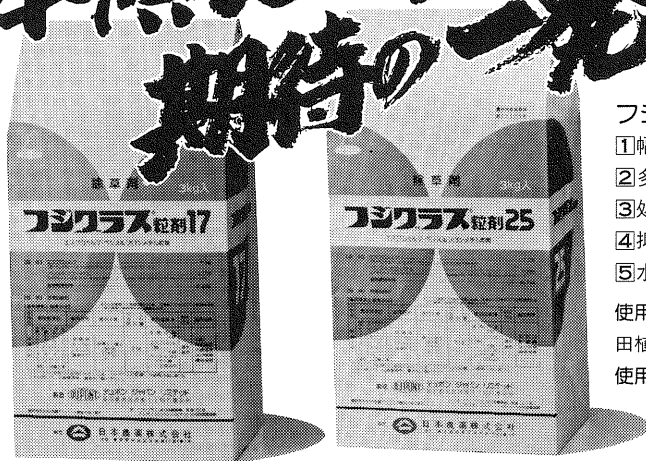
区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅷ 1. 少量 散布 法 (つしき)	③ DPX-84 M粒 (プッシュ25)	土 壌 処 理	寒冷地北部.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・アオミドロ・ 表層剥離.	田植前後に初期剤 を少量散布した場 合. +7〜ノビエ2L まで. ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	壤土〜埴土 (2 cm/日 以下).	(1) 初期剤を前処 理に少量散布 (200 g/a) す ることにより除 草効果向上. (2) 著しい多雨条 件では除草効果 が低下する場合 があるので使用 はさしひかえる.
	④ DPX-84 M粒 (プッシュ17)	土 壌 処 理	温暖地の普 通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヒルムシロ. (但し, オモダカ・ ヒルムシロは温 暖地東部普通期 のみ.)	田植前後に初期剤 を少量散布した場 合. +3〜ノビエ2L まで. (但し, 温暖地東 部普通期は+5 〜ノビエ2Lま で.) ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2Lまで. オモダカ; 発生始 まで. ヒルムシロ; 発生 期.	300 g/a	砂壤土〜埴 土(2 cm/ 日以下). (但し, 温 暖地西部 普通期の 砂壤土は (1.5 cm/ 日以下).)	(1) 初期剤を前処 理に少量散布 (200 g/a) す ることにより除 草効果向上. (2) 処理後24時間 以内から1日50 mm以上の降雨が 連続することが 予想される場合 は使用をさしひ かえる. (3) オモダカ防除 は, オモダカに 有効な剤との組 み合わせて使用 する.
Ⅷ 2. 少量 散布 法	① CG-113 粒 (ソルネット)	土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地東部の 普通期・温 暖地早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ. (但し, ヘラオモ ダカは寒冷地北 部のみ. ミズガ ヤツリは温暖地 西部早期のみ.)	植代後〜4. ノビエ; 1Lまで. ホタルイ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ; 発生始まで.	150 ~ 200 g/a (少量散布).	砂壤土〜埴 土(2 cm/ 日以下). (但し, 温 暖地東部 早期は (1 cm/ 日以下). 温暖地西 部早期は 埴土〜埴 土(1cm/ 日以下).)	(1) 一発処理型除 草剤の前処理と して植代後〜 4に少量散布 (150~200 g/ a)が可能.

注) 1. アンダーライン実線は本年度拡大された部分。点線はその一部が拡大されたものを示す。

2. 薬剤名欄の下段に商品名()内)または農薬登録後予定される商品名を()内*印付)を参考の
為に記載した。

新刊	野外観察ハンドブック		校庭や路傍で普通に見られる雑草を取り上げ、ユニークな視点からその見分けかたを展開。野外指導に携わる著者が、身近な雑草を生きた教材として活用するためにつくりだした、まったく新しいタイプの野外観察図鑑。 ●雑草の「くらし」と「かたち」 ●校庭の雑草160種 ●校庭雑草の調べかた の3部構成。
	校庭の雑草		
	岩瀬徹・川名興/共著 A5判/147頁/カラー写真約520点/定価1,900円		
全国農村教育協会 〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館) ☎03(833)1821 振替/東京1-97736			

本領発揮 期待の一粒。



初・中期一発処理除草剤

フジガラス®粒剤

®、「フジガラス」は登録商標です。

フジガラス粒剤の特長

- ①幅広い雑草にすぐれた効果を示します。
- ②多年生の難防除雑草にもよく効きます。
- ③処理適期幅が広く、散布に余裕がもてます。
- ④抑草期間が長く、一発処理ができます。
- ⑤水稲に安全性が高く、安心して使えます。

使用適期

田植5日後から、ノビエ2.5葉期。

使用薬量 10アール当り3kg。

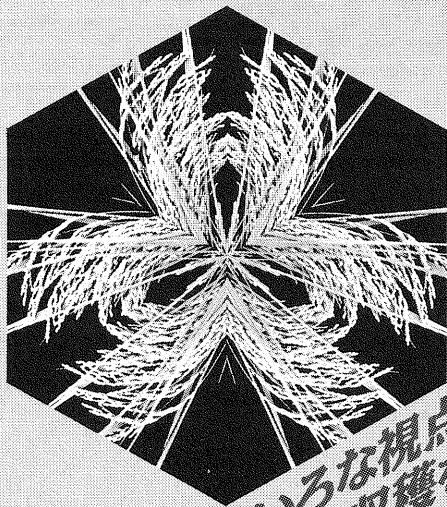
フジガラス普及会

日本農業株式会社 デュボン ジャパン リミテッド

アイ・シー・アイ・ジャパン株式会社

事務局：日本農業株式会社 東京都中央区日本橋1丁目2番

ホクコーの主要水稲用除草剤



いろいろな視点で
収穫を見つめて。

高温多湿で病害虫、雑草の多い日本では、
農薬のない農業は成り立ちません。



農協
経済連
全農



北興化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本石町4-4-20

初期一発処理剤

プッシュ® 粒剤
クサカリン® 粒剤

初・中期一発処理剤

ロザール® 粒剤

初期除草剤

デルカット® 乳剤
ロンスター® 乳剤
マーシェット® 粒剤2.5
モーダウソ® 粒剤

中期除草剤

セスロン® 粒剤
バサグラン® 粒剤・液剤
(ナトリウム塩)

Agri-Future 未来農業をめざして。



——ますます充実の除草剤ラインナップ——

シリウス[®]

アクト[®]

イナズマ[®]

サーベイヤ[®]

ボルサー[®]

ライザー

ロンスター[®]

デルカット[®]

オーザ[®]

グラスゴン[®]

グラスジン[®]

バスタ[®]

ラッソー[®]

タルガ[®]

シマジン[®]



日産化学工業株式会社 農薬事業部

〒101 東京都千代田区神田錦町3-7-1 (興和一橋ビル)

□ 研究所・試験場めぐり □

北陸農業試験場

—— 雑草研究・除草剤・生育調節剤 ——

北陸農業試験場は良質米生産地帯の中心に位置している。当場の前身である農事試験場北陸支場は、新潟県農事試験場上越試験地の土地・建物を譲り受け北陸4県および長野県を対象地域として、昭和19年に設立された。設立当初に緊急に解決を要する問題とされたのは日本海側一帯の水田地帯農業振興のための稲作改善、麦・飼肥料作物等裏作導入、およびもち病防除であった。

昭和25年、北陸農業試験場が北陸4県を対象として設置され、翌26年には長岡（水稻育種）、安積（麦類育種）、山形（緑肥作物育種・病害防除）各農事改良実験所の事業と定員（一部）を吸収し、研究内容も積雪地帯における水田及び畑作物の品種改良、栽培法改善、湿田の乾田化及び畑地化、施肥法改善、病虫害防除等に拡大された。戦後の混乱期で圃場や施設、備品の整備には多大な困難を伴ったが、地元の力強い支援があり、また研究者の努力があって、“北陸地方稲作農家のメッカであり、多数の見学者が押し掛けた”と言われるほどになった（北陸

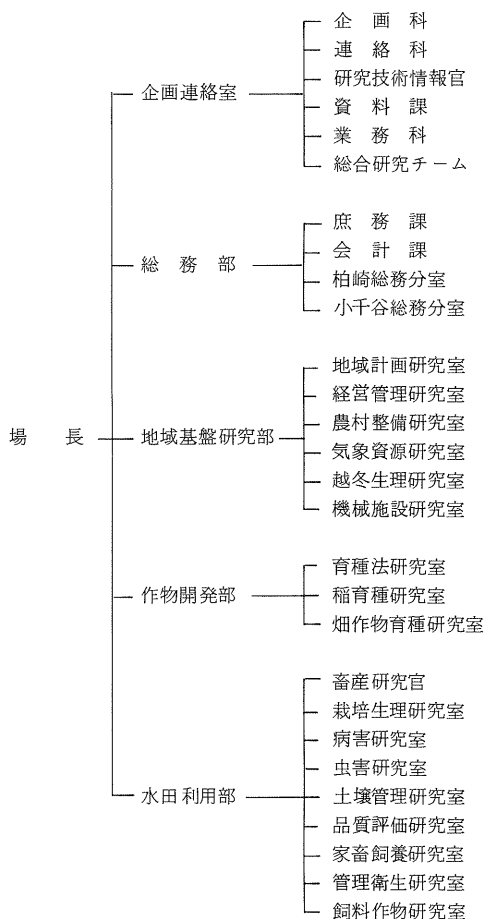


農業試験場「試験研究のあゆみ30年」，「思い出」による）。その伝統は引き継がれ、現在でも地域の内外を問わず多数の見学者が訪れてきている。

昭和63年の研究体制の見直しでは内部組織を大幅に変更し、また蚕糸試験場の桑育種第2研究室、家畜衛生試験場の北陸支場関連の土地、施設、人員の一部等を受け入れて図のような組織体制になった。試験研究の内容も拡大され、次の4主要研究問題について研究の推進を図ることになった。

1. 北陸地域農業の発展方式の確立
2. 多雪地農業における克雪技術の確立

北陸農業試験場の組織図



3. 北陸平坦水田地帯における総合生産力向上技術の確立
4. 北陸中山間・畑・砂丘地帯における総合生産力向上技術の確立

雑草防除に関する研究

人間が農業を始めてまず問題になったのは雑草との闘いであろう。除草剤が普及する以前は手取り除草や中耕除草が行われ、土用の頃の止め草などは炎天下の重労働であった。

戦後間もない頃に2,4-Dに関する全国の連続試験が実施され、また、昭和30年代にはPCPおよびPCPとホルモン剤との混合剤等の作用機作や適用法の試験が行われ、除草剤は農家にも普及するようになった。その後、除草効果のみならず魚毒や環境汚染、作業者の安全性等の観点からも薬剤の開発が進められ、目ざましい進歩がみられている。もはや、除草の重労働から解放されたと言える。

当場には雑草関係の専門研究室はないので、水田、畑ともに栽培関係の研究室が担当してきた。水田雑草についてはケイヌビエの発生生態、ヒルムシロ、クログワイ、ミズガヤツリの増殖、マツバイの生態型等の雑草生態に関する研究、除草剤の作用機作に関する組織・形態学的な研究、クサネム、アメリカセンダングサの発芽特性やアレロパシー等に関する生理学的研究等が行われ、多くの成果が報告されてきた。畑雑草についても生育収量に対する除草効果試験、除草剤の使用法についての基礎試験等が行われた。現在は雑草研究についての全国的な分担関係もあって、栽培関係の研究室では雑草に関するテーマは取り上げていない。

当場の病害研究室では難防除雑草クログワイを侵害し、稲やイグサ等の作物には害がなく、

人工培養が容易である不完全菌の一新属菌の探索に成功した。この菌の接種によるクログワイの発病の推移や繁殖力の衰退の様相等についても研究が進められており、生物防除法として注目されている。

生育調節に関する研究

湿田における耕種条件の改善は北陸地域の重要問題であるが、耕深、代かき、栽植密度、施肥量、長期落水処理等についての精力的な研究は、稲作の収量向上に貢献してきた。

化学物質による生育調節としては、NAA, PCPによる分げつ数の調節、2,4-D, NAA, キタジンP, セリタード, スマレクト等の処理による倒伏防止、ジベレリンによる苗や節間の伸長調節、酸素供給資材(カルパー等)による出芽、苗立の安定化等の検討が行われてきた。

降水量の多い北陸地域では穂発芽が問題なので、基礎的な研究が行われ、穂発芽しやすい品種の発芽機構等が明らかにされた。また、乾燥剤の利用についても検討が行われた。

試験場の見学に訪れた農家の方との話の中で、“施肥・水管理の工夫でコシヒカリ660kg以上”とか“今でも2,4-Dを使って効果を上げている”という声も聞かれる。高水準稲作農家の調査ではその地域に適合した栽培法で見事なコシヒカリを作っている精農家に会った。コシヒカリの栽培では倒伏軽減剤に対する関心も示されている。

作物の栽培管理の中で化学物質が果たす役割はきわめて大きい。土地基盤整備、品種改良等基盤技術の活用とともに適切な栽培管理によって健全な作物を育て、安全な食糧を確保することができるであろう。そのために農業試験場が取り組むべき試験研究課題は多い。

(北陸農業試験場 金 忠男)

人 事 往 来

<アイ・シー・アイ・ジャパン株式会社>

(平成2年1月1日付)

田 中 進 営業部次長・営業担当(営業部
営業課長)中 村 茂 博 営業部次長・技術普及担当(研
究開発部次長)上 野 博 営業部技術普及課長(営業部技
術普及課副課長)杉 塚 朋 元 営業部営業課長(営業部営業課
副課長)中 島 哲 男 研究開発部開発課長・殺虫・殺
菌剤担当(新任)岩 永 秀 樹 研究開発部開発課長・除草剤・
PGR担当(研究開発部開発課
副課長)

<塩野義製薬株式会社>(平成2年1月22日付)

高 柳 淳 植物薬品開発部長(動植薬開発
部次長)

植 調 協 会 だ よ り

◎会議開催日程のお知らせ

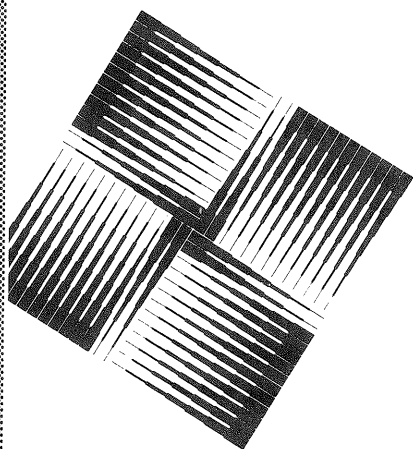
・平成元年度非農耕地関係除草剤・生育抑制
剤(刈取代用剤)試験成績検討会

日時:平成2年3月6日(火), 10:00~17:00

場所:植調会館3階会議室

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)832-4188(代)平成2年3月発行
植調第23巻第12号定価412円(送料210円)
(本体400円, 消費税12円)編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 吉 沢 長 人
発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 広 田 伸 七東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京(03)833-1821番(代)

水田多年生雑草に、落水処理であざやかな効果



散布適期が広く、使いやすい除草剤

バサグラン®

粒剤(ナトリウム塩)、液剤(ナトリウム塩)

適用雑草・オモダカ・クロクワイ・ミスガヤツリ・ウリカワ・
シスイ、水田一年生広葉雑草等

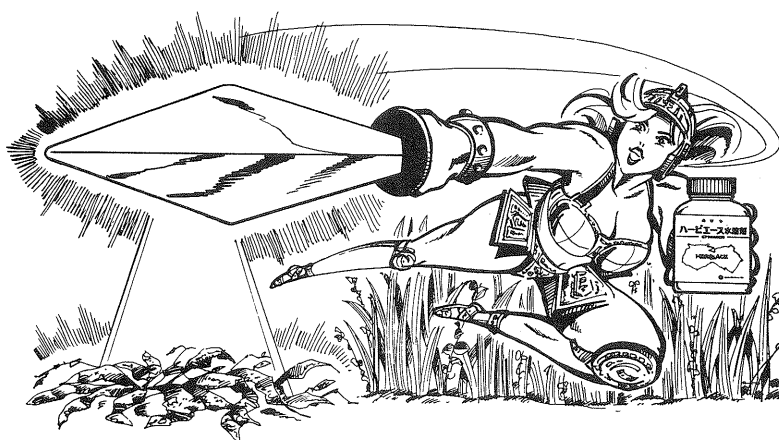
効きめと安全の信頼にたえる

住友化学
原体販売元=住友化学工業
東京都中央区日本橋2丁目7番9号

バサグラン普及会

クミアイ化学工業・三共
サンケイ化学・日本農薬
北興化学工業・八洲化学工業
事務局=住友化学工業

®は西ドイツBASF社の登録商標です。



自然には、
自然から生まれたバイオ除草剤

- 確かな効きめです。
- 効きめが速く、長続きします。
- 土壌を汚染しません。
- 果樹等の根元まで除草できます。
- より高い安全性を追求しました。
- 新製剤——顆粒状水溶剤です。

明治ハービエース水溶剤

果樹園、野菜畑、桑園、非農耕地に！

明治製薬株式会社

新刊

診断と防除シリーズ

稲の病害

—診断・生態・防除—

大畑貫一・著、A 5 判、560頁、上製本、
定価6,695円（本体6,500円）

わが国の稲に発生する53種の病害について、病徴、
診断、病原、伝染環、品種、防除法を解説。また、総論
では病気や防除の基本的な考え方を解説。
病害防除にたずさわる人の必携書。

果樹の病害虫

—診断と防除—

山口昭・大竹昭郎／編、A 5 判、644頁、上製本、
定価7,004円（本体6,800円）

新版

野菜の病害虫

—診断と防除—

岸国平／編、A 5 判、651頁、上製本、
定価6,695円（本体6,500円）

作物病害事典

B 5 判、944頁、カラー写真2,640点、
上製本、定価28,840円（本体28,000円）

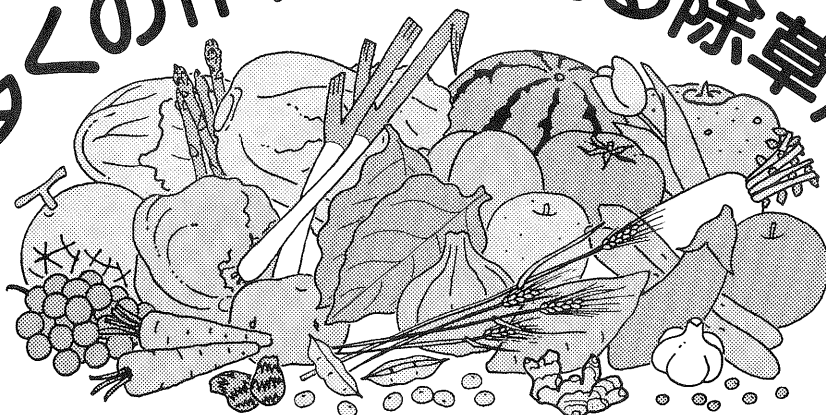
405種の作物に発生する3,554種の病害についてカラー
写真を挿入しながら、病徴、病原、伝染を記載。また、不
完全菌類91属の形態図と解説を付記。
わが国初の病害総合図鑑。

全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6 〒110

TEL 03-833-1821
FAX 03-833-1665

多くの作物に使える除草剤



トレファノサイド[®] 乳剤
粒剤2.5



シオノギ製薬

大阪市東区道修町3-12 〒541

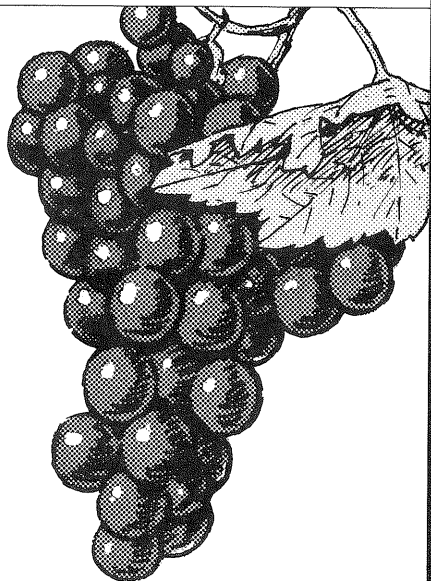
'88-3B52

植物化学調節実験法

植物化学調節学会 高橋 信孝・編

A5判・468頁・定価5,000円(税別)

植物の化学調節研究はいわゆるモノトリ屋、ブッカケ屋の連携によって初めて可能となるもので、両者の相互理解が必要です。本書はこの研究に役立つよう編集されています。つまり、作物の研究者、技術者が生理活性物質の分離・同定や生物検定法を、化学、薬学の研究者が除草剤、植物調節剤の生物実験法を理解し、実験できるよう平易かつ具体的に解説してあります。



発行 植物化学調節学会

発売 全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館)

〒213 TEL.03(833)1821 FAX.03(833)1665

流れは一発、ワンオール



水田初期一発処理除草剤

ワンオール[®]粒剤



農 協
経 済
連 全
全 農

ワンオール協議会

全国農業協同組合連合会 石原産業株式会社
日本チバガイギー株式会社 八洲化学工業株式会社

事務局 石原産業株式会社

東京都千代田区富士見2-10-30

チョットつけるだけ。 タツプリかける時代の終りです。

小沢昭一

ラウンドアップ®の特徴を活かした 新しい除草法です。(少量散布技術)

これまでの除草の散布は、雑草にタツプリと丹念にかける。10アール(1反歩)当り100リットルあるいは200リットルの散布水量が常識でした。ところが、この常識をやぶり、10アール当り25リットルの水量で雑草にポツポツとチョットつくだけで雑草全体をしっかりと枯らす新しい除草法が出現しました。これは、雑草の一部につくだけで雑草の体内のすみずみにまで行き渡る特性と、同じ薬量なら濃度が高い(少ない水で希釈する)ほど効果が増するという性質を持つラウンドアップ®だからできる新しい除草法です。水量が少なければ、散布がらくなだけでなく、水の運搬、薬剤の調合の回数を少なくできます。多量散布から少量散布へ。時代は、資源節減、省力化に向っています。ぜひ、試して、効果と労力の差を実感してください。



●薬量が250mlと少なく経済的。

通常の散布方法で10アール当り500mlの薬量が必要な場面でも、250mlで同じ効果を出すことができ経済的です。

●散布水量が25ℓ(今までの $\frac{1}{4}$ ～ $\frac{1}{2}$)と少なく省力的。

除草剤の散布は薬剤によって10アール当り100ℓあるいは200ℓの散布水量が必要でしたが、専用ノズルを取り替えるだけでわずか25ℓで済み散布、準備、水の運搬、薬剤の調合が楽になり省力的です。

●ノズルは、ラウンドノズル25を必ず使用。

少水量散布専用ノズルを必ずご使用ください。このノズルは、
●従来の散布歩行スピード、散布要領を変えることなく10アールに25ℓの水量を散布できます。
●散布した所が白く見え重複やかけ残しがなく確実です。
●飛散が極めて少ないので大切な作物にも安心です。

ラウンドアップ®は、安全性が高いため
取扱いが容易です。

- 大切な作物の根からは、吸収されません。
- 土の活力を守ります。
- アミノ酸系の除草剤です。

(人畜毒性/普通物 | 魚毒性/A類)



しっかり枯らす。長～く抑える。



®米国モンサント社登録商標

●ラウンドアップ®を詳しく説明したパンフレットを差しあげております。右記の住所までお申し込みください。

ラウンドアップ普及会
クミアイ化学工業(株)・三共(株)

事務局 日本モンサント株式会社 アグロサイエンス事業部
〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル Tel.(03) 287-1251

力のウルコ

チカラ

頑固な雑草に必殺一発パンチ!

大好評!!

東北向中心の水田一発処理除草の決め手
力と技のウルコ

も新登場!

話題の低コスト除草
水田一発処理除草剤

粒剤 25



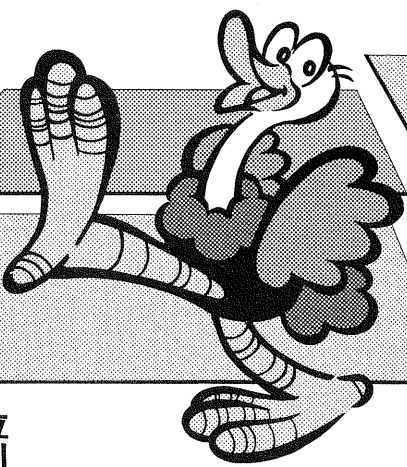
水田除草 新時代

農協・経済連・全農

自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社

効きめ、あざやか。

「初期」から「中期」への絶妙のバトンタッチ。



水田中期除草剤

マメットSM

粒剤

- ノビエの3.5葉でも効果バッチリ!
- 多年生雑草にも効果抜群!

■雑草の発生に合わせて姉妹品もどうぞ。
マメット®粒剤/オードラム®M粒剤/エスドラム®粒剤/ナクサー®粒剤

農協 経済連 全農

モリネット普及会

八洲化学/三笠化学/アイ・シー・アイ・ジャパン/トーマン
事務局 八洲化学工業株式会社 〒103 東京都中央区日本橋本町1-9-4